

ニ止マレリ仍テ常例ニ依リ先ツ本條ノ決ヲ取り逐次下條ニ及ホス
ヲ可トス

○五番 柳原前光 八番ヲ賛成ス

○議長 廿六番ノ建議ノ如ク妾ヲ存スルヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ存セサルニ決ス續テ第百十四條ノ決ヲ取ル
可シ然ルニ本案廢棄セハ直ニ原案ニ決ス可シ第三百十一條妾ヲ掲
クルヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ原案ニ決ス

○八番 細川潤次郎 修正委員ノ報告セシハ第百十四條第三百十一條第三

百五十三條第三百五十四條第三百七十七條ノ五條ナリ然ルニ已ニ
第百十四條原案ニ決セシ上ハ他條ハ連帶シ決ヲ取ルヲ可トス若シ
議官中或ハ親屬ニ列セサルモ他條ニ置クハ妨ケナシトスルモノナ
キヲ保タスト雖モ此ノ如キハ其條ニ就テ論スルモ妨ナシ故ニ后四
條ヲ連帶シテ決セラレンコヲ建議ス

○四番 津田真道 賛成

○議長 委員ノ報告案ハ各章節ニ散在スル者ナリ之ヲ纏括シテ議決
ヲ要スルノ意ナル乎

○八番 細川潤次郎 然リ妾ニ關スル爲メニ修正セシ案ナレハ固ヨリ妨ケ

ナカル可シト信ス

○議長 八番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ建議ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第三百十一條 本夫其妻妾ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百五十三條 妻妾姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者モ亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

第三百五十四條 夫アリ若クハ妻アル者重子テ婚姻ヲ爲シ及ヒ妾

ノ他人ト婚姻ヲ爲シ又ハ他人ノ妾ト爲リタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻妾子孫及ヒ其夫妻又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ窃取シタル者ハ窃盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス

○十番 水本成美 第三百十一條以下ハ無用ナリ假令他ニ有用ナリトスル

モノアルモ第百十四條既ニ原案ニ決シタル上ハ他ノ無用ニ屬スルハ論ヲ俟タサルナリ

○五番 柳原前光 第百十四條ニ妾ヲ置カサルトキハ假令ヒ犯姦又ハ家財

ヲ窃取スルコアルモ已ニ親屬ニアラス乃チ雇人ナルヲ以テ和姦トス可ク又窃取ヲ告發スルモ尋常一樣人タルヲ以テ妨ナシトスルニ

付十番ノ説ヲ至當トス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○正番 起立者無シ

○議長 全會一致否トスルヲ以テ原案ニ決シ即チ第二編第百十六條

以下第百廿八條ニ移ル可シ

○第二編

第一章

第百十六條

第百十七條

○十番 水本 成美 第百十七條第二項ノ山陵ヲ皇陵ト修正ス可シ從來至尊

存生中ハ乘輿或ハ車駕ト稱スルモ本案ハ己ニ天皇皇后皇太子ト直

指ス然ラハ皇陵トスルモ敢テ不敬ニアラサル可シ

○三番 大久保 一翁 賛成

○三十番 鶴田 皓 賛成

○廿六番 伊丹 重賢 賛成

○八番 細川 潤 次郎 賛成

○十一番 伊集院 兼寛 賛成

○議長 十番ノ修正ヲ問題ト爲ス

○議長 十番ノ修正ニ同意ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ十番ノ修正ニ決シ即チ第二編第百十六條以下第百廿八條ニ移ル可シ

第一百十八條

第一百十九條

第一百二十條

第二章

第一節

第一百二十一條

第一百二十二條

第一百二十三條

第一百二十四條

第一百二十五條

第一百二十六條

第一百二十七條

第一百二十八條

○議長 第二編第一百十六條已下本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ即チ第百廿九條以下第百四

十一條ニ移ル可シ

第二節

第一百二十九條

第一百三十條

第一百三十一條

第一百三十二條

第三百三十三條

第三百三十四條

第三百三十五條

第三章

第一節

第三百三十六條

第三百三十七條

第三百三十八條

第二節

第三百三十九條

第四百十條

第四百十一條

○議長 第百廿九條已下本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○四番 津田 眞道 特別建議ヲ爲ス本案ハ完全無瑕ナルヲ以テ全編ヲ連帶

シテ決議アラシクヲ希フ

○九番 神田 孝平 賛成

○議長 四番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ四番ノ建議ニ決シ即チ第百廿九條以下大尾

ニ至ル迄連帶シテ決議ヲ取ル可シ

第三節

○第四百二十二條

第四百二十三條

○第四百二十四條

○第四百四十五條

第四百四十六條

○第四百四十七條

○第四百四十八條

第四百四十九條

○第四百五十條

第四百五十一條

第四百五十二條

第四百五十三條

第四節

第四百五十四條

第四百五十五條

第四百五十六條

第五節

第四百五十七條

第四百五十八條

第四百五十九條

第四百六十條

第六十一條

第六節

第六十二條

第六十三條

第六十四條

第六十五條

第六十六條

第六十七條

第六十八條

第六十九條

第七十條

第七節

第七十一條

第七十二條

第七十三條

第八節

第七十四條

第七十五條

第七十六條

第九節

第七十七條

第七十八條

第一百七十九條

第一百八十條

第一百八十一條

第四章

第一節

第一百八十二條

第一百八十三條

第一百八十四條

第一百八十五條

第一百八十六條

第一百八十七條

第一百八十八條

第一百八十九條

第一百九十條

第一百九十一條

第一百九十二條

第一百九十三條

第二節

第一百九十四條

第一百九十五條

第一百九十六條

第一百九十七條

第百九十八條

第百九十九條

第二百條

第二百一條

第三節

第二百二條

第二百三條

第二百四條

第二百五條

第二百六條

第二百七條

第四節

第二百八條

第二百九條

第二百十條

第二百十一條

第二百十二條

第五節

第二百十三條

第二百十四條

第二百十五條

第二百十六條

第二百十七條

第六節

第二百十八條

第二百十九條

第二百二十條

第二百二十一條

第二百二十二條

第二百二十三條

第二百二十四條

第二百二十五條

第二百二十六條

第七節

第二百二十七條

第二百二十八條

第二百二十九條

第二百三十條

第八節

第二百三十一條

第二百三十二條

第九節

第二百三十三條

第二百三十四條

第二百三十五條
第二百三十六條

第五章

第一節

第二百三十七條
第二百三十八條
第二百三十九條
第二百四十條
第二百四十一條
第二百四十二條

第二節

第二百四十三條
第二百四十四條
第二百四十五條

第三節

第二百四十六條
第二百四十七條
第二百四十八條
第二百四十九條

第四節

第二百五十條
第二百五十一條

第二百五十二條

第五節

第二百五十三條

第二百五十四條

第二百五十五條

第六節

第二百五十六條

第二百五十七條

第六章

第二百五十八條

第二百五十九條

第二百六十條

第二百六十一條

第二百六十二條

第二百六十三條

第七章

第二百六十四條

第二百六十五條

第二百六十六條

第八章

第二百六十七條

第二百六十八條

第二百六十九條

第二百七十條

第二百七十一條

第二百七十二條

第九章

第一節

第二百七十三條

第二百七十四條

第二百七十五條

第二節

第二百七十六條

第二百七十七條

第二百七十八條

第二百七十九條

第二百八十條

第二百八十一條

第二百八十二條

第二百八十三條

第二百八十四條

第二百八十五條

第二百八十六條

第二百八十七條

第二百八十八條

第二百第三節

第二百八十九條

第二百九十條

第二百九十二條

第三編十二

第一章

第一百節

第二百九十二條

第二百九十三條

第二百九十四條

第二百九十五條

第二百九十六條

第二百九十七條

第二百九十八條

第二節

第二百九十九條

第三百條

第三百一條

第三百二條

第三百三條

第三百四條

第三百五條

第三百六條

第三百七條

第三百八條

第三節

第三百九條

第三百十條

第三百十一條

第三百十二條

第三百十三條

第三百十四條

第三百十五條

第三百十六條

第四節

第三百十七條

第三百十八條

第三百十九條

第五節

第三百二十條

第三百二十一條

第六節

第三百二十二條

第三百二十三條

第三百二十四條

第三百二十五條

第七節

第三百二十六條

第三百二十七條

第三百二十八條

第三百二十九條

第八節

第三百三十條

第三百三十一條

第三百三十二條

第三百三十三條

第三百三十四條

第三百三十五條

第九節

第三百三十六條

第三百三十七條

第三百三十八條

第三百三十九條

第三百四十條

第十節

第三百四十一條
第三百四十二條
第三百四十三條
第三百四十四條
第三百四十五條
第十一節
第三百四十六條
第三百四十七條
第三百四十八條
第三百四十九條
第三百五十條

第三百五十一條
第三百五十二條
第三百五十三條
第三百五十四條
第十二節
第三百五十五條
第三百五十六條
第三百五十七條
第三百五十八條
第三百五十九條
第三百六十條

第三百六十一條

第十三節

第三百六十二條

第三百六十三條

第三百六十四條

第三百六十五條

第二章

第一節

第三百六十六條

第三百六十七條

第三百六十八條

第三百六十九條

第三百七十條

第三百七十一條

第三百七十二條

第三百七十三條

第三百七十四條

第三百七十五條

第三百七十六條

第三百七十七條

第二節

第三百七十八條

第二百七十九條

第二百八十條

第二百八十一條

第二百八十二條

第二百八十三條

第二百八十四條

第三節

第二百八十五條

第二百八十六條

第二百八十七條

第四節

第二百八十八條

第二百八十九條

第五節

第二百九十條

第二百九十一條

第二百九十二條

第二百九十三條

第二百九十四條

第二百九十五條

第二百九十六條

第二百九十七條

第三百九十八條

第六節

第三百九十九條

第四百條

第四百一條

第七節

第四百二條

第四百三條

第四百四條

第四百五條

第四百六條

第四百七條

第四百八條

第四百九條

第四百十條

第八節

第四百十一條

第四百十二條

第四百十三條

第四百十四條

第九節

第四百十五條

第四百十六條

第十節

第四百十七條

第四百十八條

第四百十九條

第四百二十條

第四百二十一條

第四百二十二條

第四百二十三條

第四百二十四條

第四編

第四百二十五條

第四百二十六條

第四百二十七條

第四百二十八條

第四百二十九條

第四百三十條

○番一 村田 保

全編連帶ノ決議ハ本員ノ固ヨリ企望スル所ナリ然レ

此本文中往々誤刷アリ今之ヲ訂正セント欲ス即チ第四百廿六條ノ
三日ハ二日。第四百廿九條第十六項ノ折採ハ採。折同十八項ノ田畝ハ
田圃。第四百三十條ノ定ムル處ハ定ムル所ノ誤ナリ各位請フ之ヲ諒

○八番 細川潤 次郎 本官モ審査委員ノ一人ナルヲ以テ疎漏ノ點ヲ補ハン

ト欲ス第四百十八條ノ田畝ハ委員ノ言ノ如シ而シテ第四百廿七條
第三項ノ夜中無提燈ノ字妥當ナラス提燈トスルトキハ或ハ手之ヲ
提クルモノト誤解ナキヲ保タス依テ夜中燈火無クシテ車馬ヲ疾驅
スル者ト修正セントス

○二十六番 伊丹重賢 賛成

○十番 水本成美 賛成

○四番 津田眞道 賛成

○三十番 鶴田皓 賛成ス但シ第四百十一條亦田畝ノ字アリ併セテ改ム

ル主意ナルヤ

○八番 細川潤 次郎 他ニ散見スルモノハ悉ク一樣ニ修正スルノ意ナリ

○十一番 伊集院兼寛 賛成
○十八番 東久世通禧 賛成
○議長 八番ノ修正ヲ問題ト爲ス
○議長 八番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ八番ノ修正ニ決ス

○十一番 伊集院兼寛 第七十三條ノ山陵モ亦皇陵ト修正ス可シ

○九番 神田孝平 賛成

○十番 水本成美 賛成

○八番 細川潤 次郎 賛成

○三十番 鶴田皓 賛成

○四番 津田 眞道 賛成

○議長 十一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○議長 十一番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○ 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ十一番ノ議ニ決ス

○十番 水本 成美 内閣委員ニ問フ第三百四十三條ノ僕婢ト第二百七十一條ノ雇人ハ其意味異ナルヤ

○外一番 村田 保 第三百四十三條ハ下女下男等ヲ云ヒ第二百七十一條ハ職工ノ類ヲ云フ第二百七十條ヲ見テ知ル可シ

○十番 水本 成美 明瞭ナリ更ニ一疑問アリ第三百八十八條ノ家資分散ハ裁判執行又ハ糶賣ノ后財主ニ家資ヲ分配スルコトナル乎

○外一番 村田 保 家資分散ノコトハ民法ニ定ム可キコトニシテ原語バンク

ヲフト云フ即チ商法ニ限ルコトナリ而シテ家資分散ハ裁判所ノ宣告ニ由ルモノト知ル可シ

○議長 第百廿九條以下大尾マテ本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス本案已ニ第三讀會ニ確定シタルヲ以テ例ニ遵ヒ上奏ス可シ散會セヨ

午後第二時三十分閉場

元老院會議筆記明治十三年三月十二日

○第七十五號議按地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第二第一讀會十四號ニ至ル議案及ヒ備荒儲蓄法布告按

議長齋藤利行
代理

出席議員

- 一番 玉乃 世履
- 三番 大久保一翁
- 八番 細川潤次郎
- 九番 神田 孝平
- 十番 水本 成美
- 十一番 伊集院兼寛
- 十二番 岩下 方平

- 十三番 楠田 英世
- 十五番 大給 恒
- 十七番 秋月 種樹
- 十八番 東久世通禧
- 十九番 津田 出
- 廿一番 河瀬 眞孝
- 廿四番 山口 尙芳
- 廿五番 河田 景與
- 廿七番 楠本 正隆
- 廿九番 柴原 和
- 三十番 鶴田 皓

内閣委員番外 内務少書記官今村 和郎

午前第十時十四分開場

○議長 本日ハ議長他ノ公用ニヨリ本官代理ヲナシ第百七十五號議案第三號ヨリ第二十四號迄ノ第一讀會ヲ開ク然ルニ本按ハ條項頗ル浩繁ナルヲ以テ其質疑ノ際或ハ混雜ヲ生センコトヲ恐ル因テ全按ヲ五段ニ分チ各段ニ朗讀セハ大ニ議場整頓ノ便ヲ得ン各位之ヲ了セヨ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三號議案

明治十一年第十八號布告第五條改正按

第五條 第一條ニ掲ケタル府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之

ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト
思慮スル時ハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第四號議按

明治十一年第十八號布告第六條改正按

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度
ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ其異見アル者ハ議長ノ名ヲ以テ直チ
ニ内務大藏兩卿ニ上申スルヲ得

第五號議按

明治十一年第十八號布告第七條改正按

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利
害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議會ノ

許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長
ノ名ヲ以テ之ヲ内務卿ニ建議スルヲ得

第六號議案

明治十一年第十八號布告第九條第二項增加按

府縣會ハ議員ノ招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者
ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

第七號議按

明治十一年第十八號布告第十一條第一項改正按

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告
シ府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告ス可シ

○二十九番柴原和 十一年第十八號布告第五條ニハ凡ソ地方稅ヲ以テ

施行スヘキ事件ハ府縣ノ會議ニ付シ其議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行ス可キモノトス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシトアリ惟フニ第十八號布告第一條ハ本律ノ惣則ナルヘシ然ルニ本按第三號第五條ニ第一條ニ掲ケタル府縣會云々ト改正セシハ果シテ重複セシモノ、如シ知ラス何ノ理由アリテ然ルヤ

○外番今和村和郎

第十八號布告第一條ナル府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ預算及ヒ其徵收方法ヲ議定ストノ一款ヲ以テ綱領既ニ盡キタリトセハ別ニ第五條ノ改正ヲ要セスト雖其第五條ニ凡ソ地方稅ヲ以テ施行ス可キ事件云々トアルハ文意太々漠然タルヲ以テ其何事ヲ問ハス必ス府縣會ノ議決ヲ經サルヲ得ストノ見解ヲ

下スモノ無キヲ保タス此ノ如キハ施政上大ニ不都合ヲ生スヘキヲ恐ル故ニ其見解ノ誤ラサルヲ要シ此改正ヲナセシナリ蓋シ時アリテハ第一條ノ外ニモ亦府縣會ノ議決ヲ要ス可キ事項アル可シト雖モ是等ハ尙第一條ノ例ニ依準セシメテ可ナリトス

○正二十七番楠本隆

第六號議按ニ就テ質問セン本號ハ乃チ議員一身上ノコナリ今縱ヒ其事故ヲ告ルモ事故明ラカナラサルトキハ其何ノ事故タルヲ知ル可ラス然ラハ其事故ハ必ス詳ニ之ヲ告ルモノト爲ス可キナリ元來法律ハ必ス參會セサル可ラサルコトヲ示スヘキニ只事故ヲ告ケスシテ云々トスルトキハ其精神太々腴柔ナルカ如シ如何

○外番今和村和郎

已ニ議員ニ擇マル、モ怠惰其職ニ堪エサルモノト決スルニアラサレハ漫リニ退職セシム可ラス其情實ヲ問ハスシテ直

ニ退職者ト爲スハ固ヨリアラサルコナリ

○一番玉乃
世履

第三號議按ニ對シ或議官ヨリ第一條ニ掲ケタル云々ハ或ハ重複ニ涉ルカ如シトノ質問アリシニ内閣委員ハ之ニ應ヘテ第一條ノ外ニ於テモ議決セシムル事アル可キヲ以テ肯テ贅文ニアラスト云ヘリ果シテ然ラハ府縣會ハ彼十二費目ヲ議スルノミニ非スシテ他ノ事項ヲモ議スルヲ得ルモノナラン此ノ如キハ其議目ハ何レニ進ム可キヤ知ル可ラス敢テ其區域ノ在ル所ヲ問フ

○番一今村
和郎

第十八號布告第一條ハ府縣會ノ正則ナリ然レモ地方官ハ之ヲシテ其他ヲモ議セシムル者アリ即チ第十六號議按及第廿號議按ノ如キ第一條ノ外ニ互ルモノ數多アリ以テ見ル可シ蓋シ是法律ヲ以テ府縣會ニ充分ノ議權ヲ與ヘタルモノナリ決シテ其區域

漫然タルモノニアラス

○二十四番山口
尙勞

第五號議案ニ依レハ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ト雖モ唯通常會期中ノミ之ヲ政府ニ建議スルヲ聽シ臨時會ニハ之ヲ准サスト云フモノ、如シ本官以爲ラク苟モ府縣内ノ利害ニ關スルコアラハ特ニ通常會議中ノミナラス其臨時會ニ於テモ亦建議スルヲ得ヘキハ固ヨリ其所ナリトス然ルヲ本按ノ如キ彼ニ聽シ此ニ聽サストナスハ其理由ヲ解スル能ハス殊ニ恠ム地方官會議ニ於テモ茲ニ議及セサリシコトヲ

○番一今村
和郎

若シ府縣内ノ利害ニ關スルコアラハ開會ハ一周年ニ及フモ不可ナキカ如シト雖モ其之ヲ爲ス可ラサルハ乃チ議會ニハ日限アリ且費用ノ定度アリ加フルニ議員ハ給料ヲ受ケサレハ焉ソ

斯ノ如ク長ク貴重ナル時ト金トヲ費ヤスニ堪ンヤ例ヘハ長崎縣ノ如キ若シ臨時會ヲ開カントセハ其管下ニ五島アリ對馬アリ其之ヲ招集スルハ多少ノ時日ト許多ノ費用トヲ要ス是民費ニ堪ヘス又議員ノ堪サル所ナリ故ニ臨時會ノ如キハ務メテ之ヲ開カサルヲ要トス若シ毎ニ之ヲ開キ其言ハント欲スル所ヲ言ハシムルモノトセハ曠日瀰久到底利害相償ハサルノ憂ヒアルヤ知ル可ケレハナリ

○十三番 楠田英世

第五號議按ニ就テハ既ニ十一年度現行律下付ノ時ニ方リ本官ハ佛國ノ法例ヲ參照シテ之ヲ論辯セシコアリ蓋シ其法タル通常議會ノ終リニ於テ委員五名以上ヲ遺留シ其費用ヲ計算セシメ若シ剩餘アレハ以テ臨時會ヲ開クノ費ニ充ル者トス但臨時會ハ府知事縣令隨意ニ之ヲ開クヲ得サルモノナリ若シ此ノ如クセハ内

閣委員ノ説明ノ如ク深ク迷惑スルニ至ラサル可シ由テ第二讀會ヲ竣テ修正ヲ加ヘントス

○二十四番 山口尚芳

委員ノ辯解ヲ得テ起草ノ意ヲ了セリ仍テ豫メ第二讀會ニ方リ修正ス可キ大意ヲ述ヘン抑第三號議按ノ第一條ニ掲クル云々ノ字句ハ全ク贅文ナリトス府縣會ノ精神ハ十一年第十八號布告第一條ニアリテ府知事縣令モ亦之ヲ動カスコヲ得ス然ルニ今内閣委員ノ説明ニ第一條ノ外ニ猶議決ニ付ス可キモノアリト云フハ即チ第十八號布告ノ第八條ニ府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行ス可キ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコアルトキハ之ヲ議ストアルヲ以テノ言ナル可シ然レモ其法意ハ知事令一己ノ意見ヲ以テセハ或ハ過誤ナキヲ保タス故ニ衆ノ所見ヲ集メント欲スルニ在リ

唯其收拾如何ハ地方官ノ意思ニ任スルノミ内閣委員ノ臨時會ハ經費ニ關スルヲ以テ容易ニ之ヲ開カスト云フニ至テハ實ニ驚クニ堪タリ夫レ第十八號布告ニ府縣會ハ通常會ト臨時會トニ類別シ其定期ニ開ク者ヲ通常會トシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トストアレハ其臨時會ヲ開クハ全ク知事令ノ權内ニアリ且第三十二條ニ通常會期ノ外會議ニ付ス可キ事務アル時府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシトノ明文アレハ縱令數月間ニ三回五回開會スルモ隨意ニナスヲ得可キモノトス已ニ此ノ如ク論シ到レハ其通常會ノミ府縣内ノ利害ニ關スル事件ヲ建議スルコトヲ得臨時會ハ建議ス可ラスト爲スノ不是ナルハ明了ナル可シ仍テ第二讀會ニ於テ修正案ヲ提出セントス

○一番玉乃世履

内閣委員ノ第十六號議按ヲ引証シ更ニ本按第五條ニ第一條ニ掲ケタル云々ト記載セサルヲ得ストノ説明ハ本官大ニ疑團ヲ固クセリ夫レ法令ノ統括法ニ付テハ往々人民ノ疑惑ヲ生スルモノ多シ是ヲ以テ本官ハ第五條改正ノ意ヲ質疑セシニ其説明殆ト法律ヲ混亂スルモノト云フ可シ噲ヘハ去年東京府會議員カ外賓グランド氏ヲ接待スルニ方リ一方ハ盛ンニ招待スルノ美ヲ説キ一方ハ之ヲ否トシ終ニ大紛議ヲ醸成セルカ如シ是レ法制ノ分明ナラサルニ由レリ現ニ問題タル議按モ亦之ト相匹似ス今府縣會規則ヲ議スルニ方リ此ニ明文ノ足ラサルモノアルヲ他ノ法律ヲ藉テ以テ之ヲ補ハント爲スハ甚タ不可ナリ若シ他ノ法律ヨリ來ルコトセハ必ス全文ヲ掲ケサル可ラサルナリ其一例ヲ舉レハ「凡ソ島嶼本屬府縣一

般ノ地方税ト徴収支出ノ分別ヲ要スルキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ具狀シ内務卿ノ裁定ヲ經テ其管内ニ布達ストアリテ第十六號ニモ亦其變則ヲ掲ケタルカ如クセスンハアル可ラス本按未タ此ノ如キ理由ヲ見出サ、ルヲ以テ内閣委員ノ辯明ハ頗ル法理ニ違フモノト認ムルナリ

○番一 番今村和郎

決シテ法理ニ違ヒタルニアラス第十六號議按ノ引証ハ姑ク閣キ更ニ第四號議按ヲ引証セン同按ニ府縣會ハ通常會議ノ初メニ於テ地方税ニ係ル云々トアリ之ト對照スレハ第三號議按ニ第一條ニ掲ケタルノ文字ハ最モ刪ル可ラサルモノトス又十三番ハ外國ノ法例ヲ援引シテ本按ノ駁撃ヲ試ムルモ我法律ヲ議スルニ方リテ頗ル之ヲ要用トナサス且臨時會ナルモノハ其議題ノ外總テ他

事ニ議到スルコトヲ得サルヲ以テ原則トセリ然ルニ府縣内ノ利害ニ關スルコトアレハ隨意該會ヲ開イテ可ナリトノ說アレト之ヲ開クヲ得ルモノハ獨リ府知事縣令ノ權内ニアルノミ殊ニ議員ノ政府ニ建議スルカ爲ニ之ヲ開クニアラス若シ之カ爲メニ開クモノトセハ又別ニ規則ヲ制定セサルヘカラス其府知事縣令ニ於テ議會ノ意見ヲ問ハンカ爲メニ臨時會ヲ開クヲ得ルハ縱ヒ規則ニ正條ナシトスルモ原ヨリ不可ナルコトナシ東京府ノ如キ已ニ之ヲ行ヘリ十三番ノ說ノ如クセンニハ更ニ一般ノ規則ヲ設ク可シ此ノ如クンハ或ハ不可ナカラシ

○二十九番 柴原和

先ニ第三號議按ニ就テ質問セシニ内閣委員ハ曖昧タル説明ヲ爲シタリ惟フニ其適實ナル辯明ニ乏シキカ故ナラン若

シ夫レ然ラハ本官ハ第三號議按ハ無益ナリトシ之ヲ廢棄セント欲ス

○十三番 楠田 英世 前言ノ不足ヲ補充センカ爲メ更ニ一言セン本官カ原律討議ノ際佛蘭斯等ノ法例ヲ引用シテ之ヲ論セシモノハ從前我邦ニ於テ未タ曾テ議會ノ設ケアラサルカ故ニ之ヲ創設センニハ泰西各國ノ法律ヲ斟酌折衷スルハ要用ノトトシ且議會ノ眼目ハ乃チ會計監督ノトニアリトセリ試ニ回視セヨ當初ノ實況タル衆人其議員ニ選舉セラル、モ未タ以テ其名譽タルヲ悟ラス却テ之ヲ忌嫌スルノ人情世態ナリシニ非ラスヤ故ニ先ツ姑ク現行法モ闊略ニシテ可ナリト議決シ遂ニ十一年頒布ノ法律トハナレリ然ルニ會計ノ監督ハ最モ人民ノ休戚ニ關シ頗ル緊切ノトナルヲ以テ明年ニモ至ラハ

恐ラクハ其論ヲ起シ之ヲ要求スルニ至ル可シ若シ之ヲ否ラストシ現行ノ規則ヲ墨守スルカ如キハ實ニ議會ノ功用ヲ爲ス能サルヤ知ル可シ

○外一番 今村 和郎 十三番ハ重テ佛蘭斯等ノ府縣會ノ例ヲ引キ我國未タ會計監督等ノ制ナキヲ以テ現行ノ議會ハ功用ナシト言フト雖モ本按ト牽連スル所ノ他ノ條款ヲ看ハ其有功ノモノタルハ自ラ分明ナラン既ニ第十二號議按ノ互ニ流用スルノ末行ニ以上費目互ニ流用スルコトヲ許サスノ字ヲ加ヘ之ヲ緊束シテ以テ其濫用ヲ防ケリ即チ府縣會ノ權力ハ舊ニ倍蕪セリト云フモ溢言ニアラサルヲ知ル可シ豈無功ノ議會ナリト云フ可ンヤ

○廿九番 柴原 和 更ニ第三號議按ヲ廢按ニ付セントスルノ理由ヲ述ン

抑十一年第十八號布告第七條ハ事件ノ二字ヲ以テ骨子トセリ蓋シ經費ヲ要スルハ事件アリテ然ルナリ若シ事件ナクンハ何ニ由テ其豫算ヲ立ツヘキヤ猶之ヲ細說セン此ニ草賊竊盜出沒甚ダ多キヲ加フ警察費ヲ云ヤス可シ惡疫流行ノ徵アリ衛生費ヲ斯ヤス可シト議及シ始メテ會計費目ノ豫算ハ立ツモノニシテ豫算ノ目的ハ全ク事件アルニ由レリ若シ其目的ナクンハ捉風捕雲ト一般ナルノニ第十號第一條ハ此意ヲ含蓄シ則チ第三條ノ事件云々ニ對照シテ明瞭ナルモノナリ然ルニ今第三號議按ニ於テ事件ノ字ヲ刪除セシハ恰モ眼目ヲ拔シモノ、如ク其關係ヤ極メテ大ニシテ府縣會議員ハ全ク鉗口束舌スルノ外ナカルヘシ是レ之ヲ廢按ニ付セントスル所以ナリ

○外番一和番今村和郎

廿九番ハ本員ノ辯明ヲ曖昧ナリトシ廢按論ヲ立テ事件ノ字ヲ削リタルヲ以テ孤注トス是レ恐ラクハ法理ヲ誤解セルモノナラン本按ハ彼地方官會議ニ於テモ往々之ヲ誤解シ該二次會ニハ已ニ修正ニ決セシニ後稍ク其非ヲ悟リ三次會ニ至リテ遂ニ原按ニ復セシモノナリ廿九番モ亦此類ナルカ抑第一條ニ所謂議定トハ事件ニアルカ將タ金額ニアルカト言ハ、苟モ字ヲ讀ムモノハ間ハスシテ其金額タルコトヲ知ル可シ且府縣會ハ其費用ノ詳查ヲ經スシテ漫ニ議決スルモノニアラサルハ實際各府縣ノ議會ヲ觀テモ知ル可キナリ若シ其事件ニ付テモ決ヲ取ルモノトセハ其弊害ハ言フニ耐ヘス例ヘハ此ニ用紙ノ費用幾何ナルヤハ議會ノ決ヲ要スルモ其使用スル所美濃紙タルト半紙タルトノ小別ニ至テハ固ヨリ議會ノ

與カル所ニアラス是其使用スル所ハ理事者ノ任スルモノナレハナ
リ二十九番ノ説ハ惟フニ行政權ト議政權トノ區別ヲ知ラサルモノ
ト云フ可シ行政議政ノ兩權並立特行セサレハ政事ハ爲ス可ラス是
乃チ議會設立ノ主義ニシテ之ヲ歐米各國ニ徵スルモ其事件ヲ議會
ノ決ニ仰ク可シトノ例ハアラサルナリ

○議長 本日ハ議官闕席多キヲ以テ本會ハ茲ニ了リ明日繼續ノ會ヲ
開カントス尙ホ質問ノ盡サル所ハ之ヲ次會ニ讓ル可シ散會セヨ

正午閉場

元老院會議筆記明治十三年三月十三日

○第一百七十五號議按地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第二
十四號ニ至ル議案及ヒ備荒儲蓄法布告案

第一讀會三月十二
日ノ續キ

議長細川潤次郎
代理

出席議官

- 二番 齋藤 利行
- 三番 大久保一翁
- 九番 神田 孝平
- 十番 水本 成美
- 十一番 伊集院兼寛
- 十二番 岩下 方平

十三番 楠田 英世

十七番 秋月 種樹

十八番 東久世通禧

二十四番 山口 尙芳

二十五番 河田 景與

二十七番 楠本 正隆

二十九番 柴原 和

三十番 鶴田 皓

内閣委員番外一番 内務少書記官今村 和郎

午前第十時二十分開場

○議長 本日ハ議長他ノ公用アリ本官代理ヲ爲シ第百七十五號議按

第一讀會即チ昨日ノ續會ヲ開ク例ニ從ヒ發議ス可シ

○廿九番柴原和 本官ハ前會ニ於テ第三號議按廢棄ノ說ヲ主張セシニ

内閣委員ハ目シテ之ヲ法理誤解トセリ蓋シ是本官ノ辯ニ乏シク論
說ノ明カナラサルニ因ルカ然レモ要スルニ本官ノ所見ハ明治十一
年第十八號布告第五條ニ「凡地方稅ヲ以テ施行ス可キ事件ハ府縣ノ
會議ニ付シ其議決ハ云々」トアル即チ現行法律ヲ存セントスルノ意
ニ過サルナリ何トナレハ凡ソ百般ノ事ヲ議スルハ必ス其事件ヨリ
論及セサレハ其經費豫算ノ目的ノ定ム可ラサルハ尋常普通ノ事ニ
シテ亦敢テ恠シムニ足ラス然ルニ委員ハ已ニ該布告第一條ニ府縣
會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス
トアレハ更ニ第五條ニ之ヲ掲クルヲ須ヒスト云ト雖モ現ニ之ヲ掲

ケ一般ニ遵守シテ別ニ妨碍ナキモノヲ删除スルハ何ノ意ソヤ各地
府縣會ノ實況ヲ看ルモ皆其事件ヨリ論及シテ其好結果ヲ見ルナリ
今若シ之ヲ删除セハ或ハ恐ル議會ハ其事件ニ論及スヘキ者ニアラ
ストシ事々意外ノ支牾ヲ生センコトヲ故ニ本按ヲ廢棄シテ之ヲ現律
ノ如クスルノ勝レルニ如ス

○外番一番和今村

府縣會ハ事件ヲ以テ議決ヲ取ルモノニアラス事件ヨ
リ生スル所ノ經費ノ豫算ヲ立テ其適否如何ヲ議決スルモノナルハ
前會ニ於テ之ヲ詳述セリ然ルニ廿九番ハ飽迄事件ノ字ヲ存セント
ス若シ此ノ如クシテ決ヲ取ルモノトセハ其事件ナル者ハ果シテ那
點ニ至ルヤ殆ト底止スル所ナク瑣々タル筆紙墨ノ消耗方或ハ巡查
ノ配置方ニ至ルモ悉ク府縣會ノ議決ニアラサレハ知事令ハ施行ス

○可ラスト爲スニ至ラン若シ夫レ然リトセハ府縣會ノ性質ヲ誤ルヤ

甚シトス畢竟之ヲ削除セシハ已ニ該布告第一條ト第五條ト其意旨
同一ナレト文章稍異ナルヲ以テ或議官ノ如ク之ヲ誤認センコトヲ慮
ルニ外ナラサルナリ若シ事件ノ字ヲ删除シテ府縣會議員ハ其權限
ヲ減殺セラレタリト誤認シ紛議ヲ起スモ苟モ法律ヲ施行スルノ主
治者ハ充分之ヲ辯解シ其事ニ錯誤ナカラシメンコトヲ勉ムルニ怠ラ
サル可シ故ニ此字ヲ删除シテ其疑惑ヲ解キ事ニ誤謬ナカラシメン
コトヲ務ムルハ目下忽ニス可ラサルノ急務トス

○廿七番楠本正隆

內閣委員ノ説明ヲ聞キ稍其大意ヲ領解スレト猶第十
八號布告第三十二條ヲ看ルニ會議ニ付スヘキ事務アル時云々トア
リ已ニ事務アリト言フ其レ事件ト何ソ異ナランヤ又第四條ニハ現

ニ會議ヲ要スル事件云々ノ字アリ然ルニ特ニ第五條ノミ之ヲ删除スルハ甚タ解ス可ラス且其説明ニ云本條ハ第一條ト同意義ナリト果シテ然ラハ何ソ熱心シテ此字ヲ削除スルヲ須ヒンヤ

○外番一和番今番村 十一年第十八號布告ノ第一條ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算ト徵收方法トヲ議定ストノ總則ヲ掲ケ第五條ハ其手續ヲ示スモノナリ其手續ナル第五條ニ於テ更ニ事件ノ字ヲ突出スルトキハ毎回陳辯セシ如ク或ハ事件ニ論及スヘシトノ誤謬アラシヲ恐ル故ニ本按ノ如ク改正セシナリ第四條ノ事件及第三十二條ノ事務ト云フハ皆是レ臨時會ニ關セシモノニシテ全ク本按ノ事件トハ殊異ナルモノナリ

○利番二藤番 第五條及ヒ第七條ニ就テハ昨日以來數回ノ間疑アリテ

終ニ第五條ヲ廢棄スヘシトノ說アルニ至レリ抑本會ハ第一讀會ナレハ全體ノ可否ニ就テ其異見ヲ陳述スルノ成規ニシテ第二讀會ト混同ス可ラス或議官ハ第五條廢棄ノ說アリト雖モ同條ハ第一條ノ惣則ト對照セシ條項ナレハ其文字ヲ削除スルモ亦敢テ不可ナシトス第七號議按ニ至テハ本官別ニ所見アリ討論ハ第二讀會ニ讓テ之ヲ提起セントス

○廿九番柴番原 委員ノ説明スル所ニ依レハ事件ヲ議決スルニアラス事件ヨリ起テ經費ノ豫算ヲ立テ之ヲ議決スル者ナリト果シテ然ラハ豫算ヲ立ルハ其事件ヨリ該豫算ノ適否如何ヲ議及ス可キモノナルヲ以テ尙更其事件ヲ議セスンハ豫算ノ適否ヲ見ルヲ得サルナリ蓋シ其何々ノ事件ハ相當ヲ得タリ故ニ其經費ノ豫算ハ此ノ如クス

可シトスルニ非サレハ到底議ス可ラサルハ是普通ノ道理ナレハナ
 リ且十一年第十八號原按ニ凡ソ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ府
 縣會議ニ付シ云々トアルハ衆人ノ記憶スル所ニシテ已ニ支障ナシ
 然ルニ今俄ニ之ヲ改ムルハ毫モ益アルヲ見ス假令小益アリトスル
 ○モ寧口舊ヲ存シテ其害ナキノ勝レルニ如カサルナリ
 ○外一番今村和郎 廿九番ノ質疑モ其歸スル所ハ舊ヲ存シテ害ナシト言
 フニ過キス然ルニ其害アル所以ハ前ニ已ニ詳述セシ如ク之ヲ掲ク
 ル時ハ議シテ那點ニ及フモ可ナリトノ疑惑ヲ生ス可シ且已ニ第一
 條ヲ以テ議事ノ制限ヲ定ムルトキハ仮令他條ニ事件ノ字面アルモ
 惣則ノ外ニ議及ス可キモノニアラス已ニ議及スヘキモノニアラス
 トセハ之ヲ法律ニ掲クルハ無用ニ属ス可ク啻ニ無用ナルノミナラ

ス反テ疑惑ヲ生スルヲ恐ル是其害ナリ故ニ之ヲ削除セサル可ラサ
 ルモノトス

○議長 第三號ヨリ第七號マテノ議按ハ質疑已ニ尽クルト認ム次號
 ニ移ル可シ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第八號議按

明治十一年第十八號布告第十三條第五款增加并第十四條但書

改正按

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者
 但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコ
 ヲ得ス

第九號議按

明治十一年第十八號布告第十七條改正按

第十七條 投票ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル用紙ニ撰舉人自己ノ住所姓名年齡及ヒ被撰人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スハシ投票ハ多數ノ者ヲ以テ當撰人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取り同年ノ者ハ圖ヲ以テ之ヲ定ム

但、、、、、、、、、

第十號議按

明治十一年第十八號布告第二十四條改正按

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉住スルカ其他總テ欠員アルハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰

第十一號議按

明治十一年第十八號布告第三十五條改正按

第三十五條 內務卿ヨリ解散ヲ命シタル日ハ其解散ヲ命シタル日ヨリ三月以内ニ更ニ議員ヲ改撰ス可シ

○議長 數號連帶シテ朗讀セシムルモ其混雜ナカラシムル爲メ質問ハ各號逐次ニス可シ

○廿七番楠本正隆 第九號ニ質疑アリ十一年第十八號布告ニハ撰舉人自

己及ヒ被撰人ノ住所姓名年齡ヲ記シ云々トアリ然ルニ本按ハ被撰人ノ住所姓名ノミニシテ其年齡ヲ記サス之ヲ删除セシムル如何ナル

故ナルヤ

擧ス

○外一番今村和郎 蓋シ被撰人ノ年齢ヲ記スルハ實際行ハレ難ク而シテ之ヲ記スモ益ナシトス何トナレハ撰舉人自己ノ年齢ハ直ニ之ヲ記スルヲ得ルモ被撰人ハ其隣里郷黨ノ人ナリトスルモ或ハ其年齢ヲ知ルニ難シ況ヤ數十里懸隔ノ地方ニアルモノニ於テヲヤ且之ヲ記載シテ其功用ハ如何ソヤ寧ロ之ヲ删除スルノ簡易ニシテ妨ナキニ如カサルナリ

○議長 質疑既ニ盡キタリ宜ク第十二號ヨリ第十五號迄ノ議按ニ移ル可シ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十二號議按

明治十一年第十九號布告第三條中改正增加按

第三條 地方稅、

- 一 警察、
- 一 河港、
- 一 府縣會、
- 一 衛生費
- 一 府縣立、
- 一 郡區廳、
- 一 郡區吏員、
- 一 救育費
- 一 浦役場、
- 一 管内限、

一 勸業、

一 戸長以下給料

以上費目互ニ流用スルヲ許サス

一 豫備費 豫算ノ不足ヲ補ヒ及ヒ豫算外ニ生シタル費用ニ充ツヘキモノヲ云

一 各町村、

第十三號議按

明治十一年第十九號布告第四條改正按

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一週年度トナシ府知事縣令ハ

其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收

ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年五

月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第十四號議按

明治十一年第十九號布告第五條改正按

第五條 非常ノ費用ハ 豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費別ニ賦用豫備費ヲ以テ給足セサルモノヲ云

課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り内務卿及大藏卿ニ報

告スヘシ其急施ヲ要スル事項ハ施行シテ後報告スルヲ得此場合

ニ於テハ之ヲ其後開ク所ノ府縣會ニ報告スヘシ

第十五號議按

明治十一年第十九號布告第八條增加按

第八條 府縣會若シ豫算ノ議按ヲ議定セサルカ又ハ議按ヲ議定ス

ルニ及ハスシテ内務卿ヨリ閉會若クハ解散ヲ命シタルハ府知

事縣令ノ具申ニ依リ内務卿ハ前年度ノ豫算額ニ據テ徵集セシム

ルヲ得

○廿七番楠本正隆 十一年第十九號布告第三條ノ費目中ニハ戸長以下給料及戸長職務取扱諸費トアリ本按ニハ單ニ戸長以下給料トセリ戸長役所ノ形況ヲ實視スルニ其費用三分ノ二ハ必ス其給料ノ外ニ屬スルモノナルニ今悉皆之ヲ支出セストセハ何ヲ以テカ戸長ハ能ク其職務ヲ爲スヲ得ンヤ然ルニ本按ニ職務取扱諸費ヲ掲ケサルハ其理由果シテ如何

○今村和郎 法律ハ原ヨリ理由アラサル可ラスト雖モ亦徒ニ理由ニノミ偏倚スルキハ實地ニ障礙アルモノ少カラス本按ニ付テハ曾テ地方官會議ニ於テ補助費ノ論ヲ提起スルモノアリテ終ニ該議ニ可決セシモ再ヒ其不可ノ點アルヲ見出セシヲ以テ更ニ之ヲ改正セ

ント欲シ遂ニ其良法ヲ得ル能ハス若シ其補助費ヲ以テ成立セハ戸長ハ所謂半民半官ト言フ可ラス細密ニ分析セハ終ニ彼ノ紙費ハ此ヨリ償ヒ此ノ墨費ハ彼ヨリ辨ス可シトスルニ非サレハ公平ト爲サルニ至ル可シ然レモ詰ル分別ハ到底爲ス能ハサル者ニシテ是レ徒ラニ理論ノミニ偏倚ス可ラサル所以ナリ本按ノ如キハ實ニ已ムヲ得サルモノナリ

○廿四番山口尚芳 十一年第十九號第三條ノ費目中流行病豫防費ノ一項アリ本按ハ之ヲ衛生費ト改ム又病院及救育所諸費ノ一項ヲ改メテ救育費トシ流行病豫防費ト病院費トヲ刪除セリ是レ病院ハ衛生費中ニ含蓄セシメタルモノナル可シト雖モ已ニ衛生ト云ヘハ人身ノ健康ヲ保護スルノ主意ニシテ既發ノ病患ヲ治療スルノ謂ニアラス

トス然ルニ別ニ病院費等ノ明文ナキハ抑々説アリヤ

○外一番今村和郎 此衛生費ノ精神ハ病院及流行病豫防ヲモ含蓄スルモノナリ良シヤ其明文ナキモ決シテ病院ヲ廢スルニハ非サルナリ

○廿四番山口尚芳 本按費目中ニ戸長以下給料ト掲載シテ其職務取扱諸費ヲ刪レリ若シ戸長ハ行政上百般ノ事務ヲ辨スルモ其給料ノ外ハ一切之ヲ支給セストスルカ戸長ハ何ヲ以テ其事ニ從フヲ得ヘキヤ既ニ戸長役所ヲ置キ戸長以下ノ吏員ヲ使用シ官民ノ爲メニ事務ヲ辨理スルハ是現ニ各地戸長役所ノ實況ナリ然ルニ戸長一己ノ給料ハ之ヲ與フルモ其他諸般ノ經費ハ悉皆給セストセハ取モ直サス戸長ニ自辨セシムルナリ此ノ如クンハ全國ニ戸長タルモノハ一人モアラサルヘシ此理由甚タ解セサルモノトス

○外一番今村和郎 戸長ノ職務タルヤ全ク行政事務ノミニ鞅掌スルモノニアラス其他種々ノ事務ヲ取扱フモノナルヲ以テ若シ之ヲ綴密ニ

分割セハ一戸長職務上ニ就テ此ハ彼ヨリ取り彼ハ此ヨリ辨ス可シトセサル可ラサルニ至ル是實際行レサルコナリ且目下戸長ノ數ヲ調査スルニ現ニ三萬餘名アリ今論者ノ説ノ如ク明瞭ニ區分セントスレハ克ク其事務ノ實況ヲ詳悉スルニ非サレハ一定ノ法則ヲ制立ス可ラス蓋シ之ヲ調査スルハ到底得可ラサル事業ナリ故ニ地方官會議ニ於テモ實際ノ困難ヲ詳陳シ斷然之ヲ削除スルノ説アリシ已ニ昨年或地方ニテハ此費目ニ議及セスシテ止ミシト聞ケリ此ノ如ク困難アルヲ以テ先ツ本按ノ如ク大別シテ斯ハ掲ケタルナリ

○廿四番山口尚芳 内閣委員ハ法律ハ理論ノミニ偏倚シテ制定ス可ラス

ト云フ或ハ然ラン然レモ善ク理由ヲ講求セハ終ニ完全ノ法律ヲ生
 スルハ疑ヲ容レサルナリ委員ハ戸長ハ半官半民ナレハ其給料經費
 詳細ニ分析ス可ラスト云ト雖モ之ニ彼ノ補助費ナルモノヲ支與セ
 ハ其法至當ヲ得ルニ庶幾ン是レ那ノ地方稅ヲ以テ小學校ノ補助費
 ト爲スト同一般ノ理ナリ一萬餘戸ヲ總理スルモ又僅々數十百戸ノ
 掌理ヲ爲スモ等ク是レ一戸長ナリト雖モ其給料ハ同一ニス可カラ
 ス其土地ノ大小冷熱ト事務ノ繁閑トヲ酌量シ以テ之カ補助ヲ加フ
 レハ豈其至當ヲ得スト云フノ理アラシヤ

○廿七番楠本 正隆 本按ニ戸長職務取扱諸費ヲ除キタルハ恐ラクハ國家
 經濟上ヨリ致セシモノナル可シ佛國ノ如キハ郡長ハ官民ノ間ニ立
 チ特ニ行政官ト爲リ或ハ人民ノ惣代ト爲リ以テ其諸務ヲ整理スル

ヲ職トス本邦ノ戸長モ亦殆ト之ニ類セリ而シテ其給料ニ至リテハ極
 メテ僅少ニシテ實ニ憫憐スヘキモノナリ十一年番外ノ布達アルハ
 蓋シ此主意ナルヘシ故ニ本官ハ第二讀會ヲ竣テ更ニ論スル所アラ
 ントス

○廿九番柴原 和 本項ノ如キ之ヲ人身ニ譬フレハ恰モ頭アリテ足ナキ
 者ニ似タリ内閣委員ノ辯明ニヨレハ地方稅中戸長以下ノ給料ハ其
 三分ノ一以上ニ居ルト或ハ然ラン然リト雖モ若シ本按ノ如ク施行
 セハ其人午前ハ戸長ノ職ニ從事シ午後ハ自己ノ作業ニ從事スルニ
 至ラン本項ノ如キハ到底明瞭ナラス但本官ノ所見ハ廿四番ノ說ト
 ハ聊カ異ナル所アリ其詳細ハ二讀會ニ於テ之ヲ論ス可シ

○外今村 和郎 一番 法律ノ明備ヲ要スルハ論ヲ俟タス故ニ本按起草者モ

○亦多少ノ腦力ヲ費ヤシ之カ明備ヲ求メシト雖モ其判別シ能ハサルハ亦不得已モノニシテ固ヨリ故ヲニ其不備不明ヲ要ムルニ非ス是ヲ以テ若シ本院之カ修正ヲ爲シ確實明備ナルヲ得ハ實ニ全國ノ幸福ナリ然レモ其確明タルニ至ルハ恐ラクハ難カルヘシ既ニ地方官會議ニ於テモ一旦ハ之ヲ補助費ト爲スノ動議ニ可決シ爾後更ニ不都合アルヲ洞見シテ終ニ本按ノ如クニ決セリ本按素ヨリ完全無缺ノ法律ト云フニアラス只其已ムヲ得サルニ成ル所ナルハ業ニ已ニ辯明スルカ如シ之ヲシテ確實明備ナラシムルノ道アラハ乞フ充分ノ修正ヲ加ヘラレンコトヲ

○十七番秋月種樹 茲ニ別段ノ建議ヲ爲サントス抑第一讀會ハ本按大意ノ可否ヲ陳ヘ或ハ疑點ヲ質問スルヲ務メトス然ルニ現況ヲ視ルニ

質問ト討論トヲ混合シ甚シキハ修正類似ノ說ヲ提起シ殆ト本會ノ性質ヲ失スル者アルニ似タリ此ノ如クシテ止マサレハ恐ラクハ議場ノ混雜ヲ醸成セン故ニ總テ議事規則ニ照準シ之カ發議アラントヲ望ム

○二番齋藤利行 十七番ノ建議誠ニ其當ヲ得タリ抑第一讀會ニ於テ討論駁議ニ涉ルハ成規ノ准サ、ル所ナリ今各位ノ發議ヲ聞クニ或ハ各ハ質問ニシテ其實討論駁議ニ涉ルモノアリ彼ノ讀會規則ハ則チ本院ノ議決ヲ以テ制定セシモノニアラスヤ苟モ彼ノ規則アル限りハ一發言ト雖モ之ニ依準シ議場ノ整頓ヲ望マサル可ラス因テ十七番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 十七番ノ建議ハ適當ナリ本會ハ本按大意ノ可否及質問ニ止

○マリ討論駁議ハ總テ二讀會ニ付ス可キモノトス故ニ議長ハ之ヲ採用シテ各位ノ能ク注意アラシムコトヲ要ス時既ニ正午ヲ過クルヲ以テ午食後再會セン暫時散會ス可シ

午後零時十二分開場

午後第一時十五分開場

欠席

十番

水本 成美

同

十三番

楠田 英世

○議長 午前引續キノ會ヲ開ク

○廿九番

柴原和

第十四號第五條ニ其急施ヲ要スル事項ハ施行シテ後

報告スルヲ得云々トアリ其急施ヲ要スル事項モ尙議會ノ決議ヲ經

テ後ニ施行スルモノナルヤ

○番一

今村和郎

然ラス其急施ヲ要スル時ハ府知事縣令之ヲ施行シ然

ル後報告スルノ主意ナリ此ノ如キハ充分其無キヲ保ツト雖モ只應

變ノ用ニ備フルカ爲メ豫メ之ヲ掲ケ置ノミ

○議長 發議既ニ盡キタリ宜ク第十六號ヨリ第十九號議按ニ移ルヘ

シ

書記官

森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第十六號議按

明治十一年第十九號布告第九條增加按

第九條 凡ソ島嶼本屬府縣一般ノ地方稅ト徵收支出ノ分別ヲ要ス

ルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ具狀シ内務卿ノ裁

定ヲ得テ其管内ニ布達ス

第十七號議按

郡區吏員給料等ノ儀布告按(沖繩縣ヲ除ク)

第十八號議按

明治十一年第三十九號布告第一條改正按

第一條 營業稅目左ノ如シ其制限金十五圓以内トス但國稅アルモ

ノヲ除ク

會社

卸賣商

仲買商

小賣商

雜商

第十九號議按

明治十一年第三十九號布告第二條中改正增加按

第二條 雜種稅、

製造人 職工 壹ケ年金拾五圓以内

船、

市場演劇其他興行、

遊技場、

料理屋、

質屋兩換屋爲替店共

陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者

壹ケ年金拾

五圓以内

古着、、、、

湯屋、、、、

遊藝師匠、、、、

俳優、、、、

幫間、、、、

水車、、、、

乘馬、、、、

屠畜 壹頭ニ付金五拾錢以内

○外番一番今村和郎第十七號議按ナル郡區吏員ノ給料ハ十一年第三十二

號達府縣官職制ヲ以テ定メ置レシモ實際大ニ困難ナルモノアリ何トナレハ其給額ヲ府縣會ノ議決ニ任セハ或ハ恐ル之ヲ減殺シテ寡

少ニ過キ終ニ郡區吏員ニ選任セラル、ヲ忌避スルニ至ランコトヲ仍

テ各府縣ヨリ之ヲ議會ニ附ス可キヤ否ヲ内務省ニ伺申セシモノ少

カラス是ヲ以テ毎年ノ議定ニ付セス當初定ムル所ノ額ヲ以テ四年

毎ニ改正セハ粗其適當ヲ得ルニ近カラントシ以テ之ヲ起草セシモ

遂ニ地方官會議ニ於テ廢按トナリシナリ仍テ茲ニ其理由ヲ一言ス

○二番利行齊藤第十七號議按ハ只郡區吏給料等ノ儀布告按トノ題號ノ

ミニシテ本文ハ闕如セリ本文ナキモノハ其是非得失ヲ論スル能ハ

ス抑如何シテ可ナラン

○外番一番今村和郎本按ハ已ニ地方官會議ニ於テ廢按ト爲リタルヲ以テ

只其題號ノミヲ存シ本文ハ乃チ闕ケタリ

○二番利行齊藤了解セリ然ラハ本場ノ議題ト爲ス可キモノニアラス朗

讀ヲ省キテ然ルモノトス又本按ハ第三號以下第廿四號ニ至リ終尾トスト雖モ本號ヲ除ケハ其議スヘキモノハ第廿三號ニシテ盡ク仍テ其記號ヲ繰上ケ廿三號ニ止ムルモノト認メテ可ナルヤ

○議長 内閣委員ノ辯明ヲ以テスレハ本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ内閣ニ於テモ斯ル粗漏アリシモノト想像ス本按ハ第廿四號ヲ終尾ト爲スモ其實ハ二番ノ說ノ如ク第廿三號ニ止マルモノナリ然レモ今卒カニ記號ヲ繰上ントセハ却テ混雜ヲ生ス可シ故ニ之ヲ換ルヲ用ヒサルヘシ

○二十七番 楠木正隆 第十八號營業稅目ハ十一年第三十九號ノ布告ニハ其種類ヲ分ケ制限ヲ立テリ本按ハ種類ヲ分タス同一ノ制限トシ又本按中雜商ノ項アリ且第十九號議按ニ雜種稅目ヲ示シ第三十九號

布告第二條ヲ改正增加セリ思フニ十八號議按中ノ雜商ト第十九號ノ雜種稅ト其種類大ニ混淆シタルモノアランカ是レ如何シテ判然其區別ヲ立ルヲ得ル乎

○外一番 今村和郎 原來營業稅ト雜種稅トノ區別ヲ爲スト雖モ已ニ營業ト單稱セハ農工商ヲ問ハス悉ク營業ナラサルハナシ今之ヲ區別セシハ原布告ニ準據シ其中ニ差支アル部分ノミヲ除キテ改正シタルモノナリ向ニ地方官會議ニ下附セラレシ原按ハ營業稅ヲ二種ニ類別セシヲ該會議ニ於テ之ヲ删除セシナリ抑原布告ノ準據トセシモノハ從前ノ府縣稅ナリ然ルニ其府縣稅ハ各地方區々ニシテ均一ナラス之ヲ標準トシテ彼此比較シ以テ營雜兩稅ノ區別ヲ立テ之カ制限ヲ定メタルモノナルヲ以テ決シテ平準ヲ得タルモノト云フ可ラ

ス而シテ其制限モ亦細密ニ過キシヲ以テ畢竟豫定タルニ外ナラサルノミ既ニ均一ナラサル府縣稅ヲ以テ標準トシタルモノナレハ今之ヲ刪ルモ亦敢テ理由ナキニ非ストス

○議長 發議ナキヲ認ム第二十號ヨリ第二十四號議按ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十號議按

明治十一年第三十九號布告第三條改正按

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ太政大臣之ヲ布告ス

第廿一號議按

明治十一年第三十九號布告第六條削除

第廿二號議按

明治十一年第三十九號布告第七條增加按

第七條 凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リヲ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第廿三號議按

明治十一年第三十九號布告第九條增加按

第九條 第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ太政大臣之ヲ布告ス

第廿四號議按

區町村會法布告按(沖繩縣ヲ除ク)

第一條 區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ハ寄合相談ノ如キ從來ノ慣行ニ從フトモ又ハ新タニ其規則ヲ設クルトモ其區町村ノ便宜ニ任ス其規則ヲ設クルモノハ府知事縣令之ヲ裁定ス

第三條 數區町村聯合會ヲ要シ之ヲ開クキハ從來ノ慣行ニ從フトモ又ハ新タニ其規則ヲ設クルトモ其地方ノ便宜ニ任ス其規則ヲ設クルモノハ府知事縣令之ヲ裁定ス

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施

行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ニ伺ヒ(戶長ハ郡區長ヲ經テ)其指揮ヲ乞フコトヲ得

第五條 數區聯合會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ數町村聯合會ノ評決ハ地方ノ便宜ニヨリ戶長又ハ郡長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルキハ總テ第四條ノ手續ニ從フヘシ

第六條 郡區長ニ於テ町村會若シ法ニ背クコトアリトスルキハ之ヲ中止シ其評決ヲ不適當ナリトスルキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ノ指揮ヲ乞フコトヲ得

第七條 府知事縣令ニ於テ區町村會及ヒ聯合會若シ法ニ背クコトアリトスルキハ之ヲ中止スルコトヲ得又ハ之ヲ解散シテ改撰セシムルコトヲ得

第八條

水利土功

公共ノ水利土功ニシテ全町村ノ利害ニ關係スルモ又或ハ數町村ノ幾分ノミ其利害ニ關係スルモノ又

ハ利害ニ關係ナキモ從來組ノ爲メ町村會ノ決議ヲ以テ其關係ア合等ノ慣行アルモノヲ云

ル人民若シクハ町村ノ集會ヲ要スルハ從來ノ慣行ニ從フトモ又ハ新ニ規則ヲ設ルトモ其便宜ニ任ス其規則ヲ設ルモノハ府知事縣令之ヲ裁定ス

第九條 第八條ニ掲ケタル集會評決ノ施行及ヒ其取締ハ第五條及

ヒ第七條ニ依ルヘシ

第十條 第三條及ヒ第八條ニ掲ケタル集會ヲ要スルハ其關係アル

區町村若クハ人民中異議アリテ其集會ニ應セサルハ府知事縣令之ヲ府縣會ニ付シ其決スル所ニ依リ之ヲ定ムヘシ

但府縣會ノ閉會ニ當リ其開會ヲ待ツヘカラサルハ府知事縣

令之ヲ決定スルヲ得

○二十九番

柴原和

第二十號議按ニ所謂其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創

設セントスルモノ云々ハ太政大臣之ヲ布告ストアリ例ヘハ神奈川縣ニ於テ其例規ヲ改正シ新法ヲ創設スルモノモ亦全國一般ニ布告スルノ主旨ナルカ

○一番

今村和郎

例規ヲ改正シ新法ヲ創設スル固ヨリ法律ヲ以テ定メ

サルヘカラス故ニ太政大臣之ヲ全國ニ布告スルナリ

○二十四番

山口尙勞

内閣委員ノ辯明ハ甚タ妥當ナラス果シテ然ラハ各地ノ慣例ニヨリ之ヲ同フスヘカラサルモノモ亦強テ全國畫一ニセサルヲ得サルニ至ラン且其例規ノ改正新法ノ創設トモニ每時全國ニ布告セサルヘカラストセハ日モ亦足ラサルナリ本按ハ到底修正

ヲ要スルヲ以テ茲ニ豫メ其端緒ヲ開キ陳述スルコト此ノ如シ

○外一番今村和郎

本按ノ意味ハ決シテ毎時之ヲ改メント云フニアラス抑漁業採藻稅ノ性質ハ即チ彼ノ營業稅雜種稅等同シカラス地方稅中ニ於テ最モ重大ナル事項ニ屬ス若シ之ヲシテ地方官ノ處分ニ專任セシムルトキハ言フヘカラサル紛紜ヲ生スルヲ恐レ政府ハ之ヲ忽略ニ付スル能ハスシテ改正創設ノコトハ必ス之ヲ全國ニ布告スル所以ナリ

○二十四番山口尙芳

假令之ヲ重大ノ事項ナリトスルモ太政大臣之ヲ布告ストハ是レ何ノ書式ニ據リテ然ルヤ從來ノ法律未ダ曾テ之レナキノ文体ナレハ遂ニ改刪修正セサルヘカラスト爲スナリ

○外一番今村和郎

本按ハ前陳ノ如ク彼制限アル稅則ヲ更改スルノ類ト

ハ太々殊異ナルモノニシテ從前其各地方ニ於テ已ニ久ク慣例トナリタルモノヲ改正シ又ハ之カ爲ニ新法ヲ創設スル等ハ總テ之ヲ一般ノ法律ト爲スニアラサレハ不可ナリト爲ス既ニ一般ノ法律タレハ太政大臣之ヲ布告スルハ豈目下ノ國法ナラスヤ

○二十四番山口尙芳

第二十二號議按ニ凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ニ定ムルモノ云々ハ現行法律ニ之レナキヲ以テ茲ニ增加セシモノナルヘシト雖モ只上リ高見積ヲ以テト云フハ太々曖昧タル文面ナリ若シ夫レ茫漠トシテ依準スル所ナクンハ其地方官ニ於テ或ハ一割ヲ課スルカ又ハ二割以上ヲ課スヘキヤ各々隨意ニ取捨スルヲ得ヘキニ似タリ此ノ如キハ本官更ニ理會シ能ハサルナリ

○外一番今村和郎

十一年第三十九號布告第二條雜種稅中ニ上リ高百分

一以內ノ明文アリ本按ハ之ニ依準ス決シテ曖昧茫漠タル法律ニア
 ラサルナリ例ヘハ魚菜市場ノ如キ諸人聚散ノ常ナキ者或ハ田舎芝
 居興行類ノ如キ臨時ニ催スモノハ共ニ日稅又ハ月稅ヲ以テ之ヲ徵
 收セサルヘカラサルモノニシテ此類世ニ尠カラス是本按ノ増加ヲ
 要スル所以ナリ抑本按ハ十一年番外ノ達シニ濫鵠シ爾來各府縣ニ
 テ陸續之ヲ起セリト雖モ概子府縣會規則ニ準據シ細大斟酌シテ成
 立セルモノニシテ其甚タシキハ直ニ府縣會規則ヲ假用スルモノア
 ルニ至リ實施シ能ハサルモノ往々是ナリ是レ他ナシ町村從來ノ慣
 行ニ由ラス強テ府縣會規則ニ準據セシニ坐スルモノニシテ人民ノ
 之ヲ厭惡スル亦宜ナリ又町村會ノ名義ハ十二年第二十二號布告ニ
 區町村會ヲ開設セル地方云々トアリテヨリ此字面始メテ法律上ニ

現出スト雖モ其以前ニハ區町村會ト認ムルノ法律ハ未ダ曾テアラ
 サルナリ然ルニ已ニ町村會アリ其規則モ亦從テ制定セサルヲ得ス
 乃チ之ヲ制定セント欲シ彼府縣會規則ニ準シ以テ六十餘條ノ則例
 ヲ爲シ再ヒ審査シテ三十餘條ニ刪リ復更ニ訂正シテ終ニ本案トナ
 リ僅ニ十餘條ニシテ止ム抑本按ノ第一條ヨリ七條マテハ原律ト同
 主義ナリト雖モ第八條以下ニ至リテハ大ニ之ニ異ナリ即チ水利土
 功ニ關スルモノハ其利害得失ノ全町村ニ關涉セサルモ或ハ數町村
 ニ關涉スルモノアリ故ニ八條以下ノ條款ハ頗ル必須ノモノトス論
 者或ハ云ン既ニ連合會アリ別ニ本則ノ制定ヲ須ヒスト豈其レ然ラ
 ンヤ彼ノ連合會ナルモノハ若シ不同意者アレハ公共ノ利益モ之ヲ
 爲ス能ハスト雖モ町村會ハ之ニ反シ彼此太タ相同シカラサルナリ

以テ本按ノ要用タルヲ知ルヘシ

○二十七番補本
正隆

町村會規則ノ如キハ之ヲ一朝ニ行ハントスルハ不
是ニシテ又行ハルヘカラス本按ハ縦ヒ行ハレサルモ務メテ之ヲ普
及セシメントスルカ十一年番外ノ布達タルヤ人民進歩ノ程度ニヨ
リ漸次ニ之ヲ施行スルノ主意ニアラスヤ本按ニモ亦從來ノ慣行ニ
從フトモ又ハ新タニ規則ヲ設クルトモ其區町村ノ便宜ニ任ス云々
トアリ是レ則チ人民隨意ニ法律ヲ制定スルモ可ナリト指示スルモ
ノニ似タリ既ニ從來ノ慣行ニ從フモノトセハ何ソ新法ヲ設クルヲ
須ヒンヤ且法律ハ人民隨意ニ制定セシムヘキモノニアラス知ラス
本按ハ之ヲ人民ノ意ニ任ストノ意ナルヤ

○番一今村
和郎

既ニ辯明セル如ク町村會ト雖モ之ヲ法律外ニ拋棄セ

サルハ言ヲ俟タサル所ナリ然レモ其詳密高尚ナル法律ハ遽ニ全國
一般ニ行フヘカラサルヲ以テ簡畧平易ヲ主トシ本按ノ如クナセシ
ナリ其規則ヲ人民隨意ニ制定セシメサルハ文中既ニ府知事縣令ノ
裁定ヲ受クヘシトアルヲ以テ識ルヘシ論者ハ何ヲ以テ之ヲ人民ノ
造意ニ任ストナスヤ故ニ慣行ニ從フト云フモ便宜ニ任ストスルモ
毫モ差支ナキモノトス

○議長 既ニ發議ノ盡キタルヲ認ムルヲ以テ茲ニ第一讀會ヲ閉ツヘ
シ

○番一今村
和郎 本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開カレ
シ
ンヲ請求ス

○二十四番山口
尙芳 茲ニ別段ノ建議ヲ爲サントス本按ハ條項浩多ニシ

テ修正ヲ要スルモノ極メテ多ク且内閣委員モ急施ヲ要スト言ヘリ
故ニ數名ノ委員ヲ撰ミ之ニ全部ノ修正ヲ托セハ却テ速ニ其完結ヲ
得ヘシ仍テ全部修正委員撰定アラシコトヲ望ム

○十七番秋月 種樹 賛成

○議長 二十四番ノ建議ヲ採用シ九番神田 孝平 二十七番楠本 正隆 二十九番柴 原

和ヲ以テ委員トス尙ホ修正按報告ヲ待テ更ニ第二讀會ヲ開クヘシ

散會セヨ

午後第三時四十分閉場

元老院會議筆記明治十三年三月廿二日

○第一百七十五號議按地方官會議ニ於テ議定ヒシ第三號ヨリ第二十四號ニ至ル議按及ヒ備荒儲蓄法布告按

第二讀會

議長齋藤 利行
代理

出席議員

- 一番 玉乃 世履
- 三番 大久保一翁
- 四番 津田 眞道
- 八番 細川潤次郎
- 九番 神田 孝平
- 十二番 岩下 方平

午前第十時四十三分開場

内閣委員番外 内務少書記官今村 和郎

十三番	楠田 英世
十七番	秋月 種樹
十八番	東久世通禧
廿一番	河瀬 眞孝
廿四番	山口 尙芳
廿五番	河田 景與
廿六番	伊丹 重賢
廿七番	楠本 正隆
三十番	鶴田 皓

○議長 本日ハ議長不参ニヨリ本官代理ヲナシ第百七十五號議按ノ

第二讀會ヲ開ク然ルニ内閣下附ノ原按ト修正按ノ二個アリ乃チ修

正按ヲ問題ト爲スヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ修正按ヲ議按トナシ例ニ遵ヒ發

議スヘシ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三號議按

明治十一年第十八號布告第五條改正按

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者ト

ス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ其事由

ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フベシ

○廿四番山口

十一月第十八號布告府縣會規則第一條ニ府縣會ハ地

方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算云々トアリ是レ經費ノ豫算ト徵收方法トヲ議定スルノ精神ナリ然ルニ其第五條ニ凡ソ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ府縣ノ會議ニ付シ云々トアルヲ改竄シテ本按ノ如クセハ果シテ何ヲ根據トシテ經費ヲ豫算シ徵收ノ方法ヲ議スルヲ得ルヤ其支辨スヘキ事件アリテコソ始メテ之ヲ議スルヲ得例ヘハ一ノ物品ヲ購求センニ其物質ノ良否ヲ視スシテ其物ヲ購フモノハ決シテアラサルヘシ今其事件ヲ掲ケスシテ其豫算及徵收方法ヲ議スルハ宛モ物品ヲ視スシテ其價格ヲ評スルニ似タリ豈之ヲ完全ト云フヲ得ンヤ是ヲ以テ本官ハ原按第一條云々ノ八字ヲ削除

セル上ハ遡リテ第十八號布告第一條ヲ修正シ府縣會ハノ下府縣ノ公共ニ關スル事件ノ十一字ヲ加ヘントス且其理由ハ第廿四號議按區町村會法布告按第一條ニ區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ストアレハ府縣會ニ於テモ同一ノ權利ヲ與フヘシトスルナリ已ニ彼ニ允ルス孰ソ此ニ許サルノ理アラシヤ況ヤ事件ヨリ議セサレハ其豫算ヲ立ル能ハサルニ於テヲヤ論者或ハ云ン苟モ其事件ヲ議スルヲ許セハ府縣會ハ隨意ニ議事ヲ爲スニ至ラント豈其然ランヤ第十八號布告第三條ニ通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議按ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ストアレハ決シテ此憂アルコトナシ特ニ其公共事件ノ字ヲ加ヘサルヲ得サル所以ハ例ヘハ東京府下ノ如キ地所建物其他金穀等ノ共有物アリ是

等ノ處辨ハ實際其府會ノ議定ニ附セサルヘカラサルニアラスヤ故
ニ其事件ノ議定ヲナシ豫算ノ金額ヲ定メ而シテ後始メテ徵收ノ方
法ニ及ホスヲ順序トス仍テ本官ハ第十八號第一條ニ修正ヲ加ヘン
ト欲スルナリ

○一番玉乃
世履

廿四番ノ動議ヲ賛成ス本官ハ修正委員ノ一人ニシテ茲
ニ本按ヲ主持セス却テ異說ニ左袒スルモノハ本按調査ノ時ニ方リ
本官既ニ此說ヲ發シタレモ同議者少數ニシテ消滅スレハナリ全体
事件ノ字ハ緊要ナルヲ以テ本官ノ持論ハ第五條ニ之ヲ掲載スルニ
在リ今二十四番ハ之ヲ第一條ニ加ヘントス彼此所在同シカラスト
雖モ其精神ハ乃チ一ナリ仍テ之ヲ賛成ス

○議長 二十四番ノ動議賛成者アルヲ以テ問題トナス

○外今村
和郎一番

廿四番ハ豫算ノ字ヲ誤解セリ抑第一條ニ府縣會ハ地
方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算云々トアルハ是レ其經費ヲ要ス
ル事件ヲ議定スルニアラスシテ何ソヤ例ヘハ橋梁ヲ架スルニ其工
事ニ由リ尙若干圓ヲ増加スヘキカ否ノ議題アリ而シテ府縣會ニ於
テハ之ヲ増加スルヲ要セスト云ハ、其豫算ヲ立ルニ及ハス之ヲ増
加スヘシト決議セハ始メテ豫算ヲ立テ以テ徵收法ニ及フヘキナリ
然ハ則チ第十八號布告第一條ノ成文ニテ十分ナラスヤ且事件云々
ノコヲ以テ東京府等ノ共有財產ヲ引証セラルト雖モ東京府ノ共有
財產ハ多クハ十五區ノ共有物ニシテ六郡ニハ關セサルモノナリ故
ニ之ヲ東京府一級ノ所有ト謂フヘカラス他府縣ニ於ケルモ亦此類
許多アルヘシ仍テ之ヲ府知事縣令ニ委託スルモ決シテ不可ナシト

ス若シ其説ノ如ク第一條ニ修正ヲ加フルトキハ更ニ數條ヲ修正セサルヘカラス現ニ第十八號布告第三條ニ「通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議按ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス」及ヒ其第八條「府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコアルトキハ之ヲ議ス」ノ兩條モ削除セザレハ首尾整頓セサルナリ又區町村會ニハ已ニ其公共ニ關スル事件ヲ議定スルノ權ヲ與ヘ府縣會ニハ何ゾ之ヲ付與セサルヤト云フト雖モ法律ハ區町村會ニハ干渉セス事件云々ハ區町村會ノ意ニ任セ之ヲ議セシムルノ精神ナリ戸長ハ行政ノ時ハ官吏ニシテ議事ノ時ハ則チ議員ト爲ルヲ得ルモ府知事縣令ハ其議會ニ參スルヲ得ス彼此ノ區域此ノ如ク分明ナリ然ルニ原按ヲ削除シタリトテ第一條ニ「府縣ノ公共ニ關スル事件」ノ

十一字ヲ加ヘサルヘカラスト云フハ原按第五條ヲ誤讀シタルモノト云ハサルヲ得ス第一條ニ「府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算云々」トアルハ即チ第五條ノコニシテ其文ハ異ナルモ其意ハ同シ若シ之ヲ分テ別事ト爲サハ第十八號布告ニ掲ケタル事務ヲ爲スコヲ得サルニ至ラン廿四番ノ説ハ不可ナリ

○八番細川潤次郎 二十四番ハ本院ノ議事規則ヲ誤レリ即今ノ議題ハ則

チ第五條ニアラスヤ然ルニ本按ヲ可認シ遠ク議按外ナル第一條ニ論及シテ之ヲ修正セントスルナリ其論旨ハ本官モ同意スル所ナレトモ奈何セン議題外ナレハ之ヲ排斥セサルヲ得ス若シ二十四番ハ熱心シテ第一條ヲ修正セント欲セハ成規ニ從ヒ其意見書ヲ提出シテ可ナリ今ハ宜ク成規ニ遵ヒ第五條ニ修正ヲナスヤ否ヲ決スヘシ

其說ヤ已ニ問題トハナリタレトモ本官ノ所見ハ一應之ヲ辯セサルヲ得ス

○二十四番山口

抑本按ハ何ノ爲メニ創立セシヤ則チ府縣會議規則ノ

改正ニシテ十一年第十八號布告ノ實施上支障アルヲ以テ之ヲ補助スルノ精神ナラスヤ然ラハ獨リ第五條ノミナラス第六七八條何レカ改正スヘカラサラン夫レ已ニ新律綱領中二三ノ箇條改正ノ時ニ於テモ他ニ撞着スルモノハ往々其他條ニ遡リテ改正シ其他從來問題外ニ議及セシコアルハ枚擧ニ違アラス況ヤ府縣會議規則ハ數十ヶ條アリ其改正増補スヘキモノ亦少カラサルニ於テヲヤ八番ハ第五條ノミ適當ト認メハ假令其他ノ條項ト支吾アル也之ニ論及スヘカラスト爲ス乎若シ然リトセハ本院ノ會議ハ殆ト無用無功ノ者ト云

フヘキ而已又内閣委員ハ第一讀會以來始終本官ノ說ヲ駁スルニ誤解ノ一語ヲ以テセリ之レ所謂夫子自ラ言フモノトス委員曰ク第一條中ニハ自ラ事件ヲモ含蓄セリト設シ果シテ其說ノ如クンハ何事ヲ論スルモ精神ハ此ニアリト云フヘキカ歐洲ノ法ニ據レハ先ツ其費目ヲ掲ケテ而シテ其目ニ從テ豫算云々ト記セリ故ニ本官ハ修正ヲ加ヘント欲スルナリ此ノ如クシテ始メテ歐洲ノ法則ト同歸ナルヘシ若シ然ラスンハ學校ナリ浦役場ナリ郡區役所ナリ其家屋若シ不用ナル地ハ之ヲ賣却スルコアルニ至リ其取扱ノ如キモ此字面ナクンハ府縣會ハ之ニ關スルコヲ得サルナリ又「公共」ノ事ヲ議セストセハ備荒儲蓄法ノ如キ亦以テ議スルヲ得サルナリ然ルニ委員ハ推及シテ第三條第八條モ削除セサルヲ得スト云ト雖モ府縣會議按モ

亦本院ノ内閣下附ノ按ヲ議スルト一般府知事縣令ヨリ下附ノ外ハ之ヲ議スルヲ得ス然ラハ第三條第八條ノ削除ヲ要セサルハ固ヨリ其所ナリ

○議長 時既ニ正午ナルヲ以テ暫時散會スヘシ

午後零時十分閉場

午後第一時開場

病ノ故ヲ以テ退席ス

四番 津田 眞道

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク

○外番一今村和郎

午前ノ會ニ或議官ハ二十四番ノ說ニ對シ反則云々ノ發議アリ窃ニ考フルニ元老院章程第四條ニ議按ハ勅命ヲ以テ内閣

ヨリ交付ス云々又議按修正條例第二條ニ修正トハ議按ノ意義文章節目字句ヲ改竄增加分合轉置删除スルヲ云トアリ然ハ則チ二十四番ノ說ハ第三號議按ニ就テ發スヘキモノニアラス若シ第一條ニ意見アレハ本院ノ規則ニ據リ之カ意見書ヲ提出アリテ可ナラン本會ニ於テ斯ノ如ク論及セハ恐ラクハ議場ノ混雜ヲ生スヘシ仍テ本員ハ第十七號第一條ヲ取テ直ニ議按ト爲スヘキヤ否ヤヲ決セラレンコトヲ希望ス

○楠本正隆二十七番

内閣委員ノ陳述スル所ハ其任議官ニ在リ委員ニシテ此說ヲ發スルハ無用ナラン

○今村和郎一番

内閣委員ト雖モ已ニ議權ヲ有セリ委員出席規則第四條ニ連上三條ノ場合ニ於テハ委員ノ發言及討論等ハ總テ該院議事

條例ニ遵フヘシ但委員ハ其決議ノ數ニ加ハラスト明文アリテ只其決議ノ數ニ入ルヲ得サルノミ之ヲ陳述請求スルハ敢テ妨ケナシ

○議長 二十四番ノ發論ニ於テハ議長モ少ク疑ヒアリ其論旨ヲ摘メハ本條ハ可ナリ然ラハ十一年十八號ノ第一條ヲ修正スヘシ但第一條モ均ク府縣會規則中ナレハ第五條モ同一ナリト云フニ似タリ仍テ之ヲ第五條ノ修正ト認メタレトモ内閣委員ノ駁論セシ如ク全ク第五條ノミニ限ラスシテ第一條ニ及フコナリヤ又ハ全ク第五條ハ完備ナレト第一條ハ不可ナリト爲スヤ

○二十四番山口 尙芳 委員ノ修正ニテ本條ナル八字ヲ削除セシ以上ハ第一條ニ修正ヲ加ヘサルヘカラス否ラスンハ第五條ノ八字ヲ削除スルニ不同意ナリト云フノミ

○議長 然ラハ議長ノ午前ニ看認メタルカ如ク發議シテ不可ナシ

○二十七番楠本 正隆 本官ハ二十四番ノ動議ニ左袒セスト雖モ其事件ノ

字ヲ加ヘントノ意趣ニ至テハ亦同感ナリ本按ニ據レハ府縣會ニ於テ其地方ノ爲メ碎心焦思利害ヲ討論スルコト能ハサルカ如シ故ニ廿四番ノ意ヲ擴張シテ後來完全ノ法律ト爲スハ本官ノ最モ希望スル所ナリ然レトモ既ニ將來ニ望ムヘキ論旨ヲ以テ今直ニ本按ニ向テ修正セハ依然不満足ノ感ヲ免カレザラン如カス全部ヲ廢シ新タニ法律ヲ制定センニハ抑事件ノ字ヲ削除セシ意趣ハ何ノ爲メナリヤ已ニ府縣會ト云ヘハ通常會臨時會ヲ併稱シタル者ナラスヤ然ルニ臨時會ニ事務ノ字ヲ存シ通常會ニ事件ノ字ヲ削レリ思フニ臨時會ノ事務ハ豫算ニ關涉スルモノニアラサルヘシ若シ之ニ關涉スルモ

ノトセハ此法律ノ精神ヲ謬ルヘシ故ニ本按ノ如クシハ地方官ハ必
ス誤テ其管轄内ニ施行スヘキ事務アルモ議員ヲ招集スルコヲ得ス
トセンカ仍テ廿四番修正ノ全体ニハ同意セサレトモ事件ノ字ヲ加
フルハ之ヲ可トス

○九番 神田 孝平 二十四番ノ精神ハ府縣會ノ權限ヲ擴充スルニ在ルヲ以
テ之ヲ可トスト雖モ公共ニ關スル事件云々附加ノ修正說ハ不可ナ
リ何トナレハ單ニ事件トノミ云フトキハ混亂ヲ生スルノ嫌アルヲ
以テ本官ハ之ヲ規則トセント欲スルナリ蓋シ此文字タルヤ意甚タ
狹隘ナルカ如シト雖モ概言スレハ凡ソ府縣會ニテ議定セシモノハ
則チ規則ナリ例ヘハ警察官ヲ五人ト定ム是則チ一規則ナリ若シ之
ニ背キテ三人ヲ置トキハ是反則ナリ仍テ規則ノ文字ニ代ルヲ可ト

ス否ラサレハ寧ロ本按ニ從ハンノミ

○一番 玉乃 世辰

本官カ首トシテ二十四番ニ左袒シタル理由ハ專ラ事件
ノ字ヲ掲クルノ點ニアリ即チ第一條ニ府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨
スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵集方法ヲ議定ストアル豫算徵收ノ二個
ハ總テ事件アリテ後ニ出ルモノナルヲ以テナリ而シテ經費ハ即チ
十二費目ナリ例ヘハ瓦橋ヲ木ニシ木橋ヲ石ニスル如キニ至テハ第
一條ニ明文ナキトキハ之ヲ定ムルモノハ果シテ何レニ歸スルヤ内
閣委員ハ豫算ノ字アレハ事件ヲ議定スルノ權モ亦此中ニ含蓄セリ
ト云フト雖モ是レ唯委員一己ノ說明ノミニシテ他ニ明據アルニア
ラス若シ地方官カ議定ノ權ハ人民ニ歸セスト獨斷スルトキハ人民
ハ之ヲ如何スヘキヤ法律ニ明文ナケレハ裁判官モ亦之ヲ奈何トモ

スル能ハス是レ二十四番ノ修正説ヲ可トスル所以ナリ
 ○外番今村和郎 二十四番ノ賛成者タル九番一番皆各々其旨ヲ異ニセ
 リ九番ノ規則ヲ議定スルト云フハ各地方官各自ニ法律ヲ立ルヲ可
 トスルカ如シ果シテ然ラハ政府ハ其地方ニ法律ヲ布クヲ得サル
 ニ至ルヘク其不可ナルハ論ヲ俟タサルナリ二十四番ノ説ハ府縣會
 ニテ建築物ノ賣却方迄ヲモ議及セシメ十二費目ノ外ニ地方官カ
 ヲ施行スルヲニモ干渉セシムルモノ、如シ是レ取モ直サス府縣會
 ニ行政ノ權ヲ與フルモノト云ツヘク甚タ不可ナリ一番ノ論旨ハ之
 ニ較フレハ稍狹窄ニシテ十二費目ノ事ヲ議セシムル迄ニ止マリ只
 第一條ノ文中ニテハ事件ト云フヲ見出ス能ハスト云フニ過キス
 此疑ヒハ能ク豫算ノ字ヲ玩味セハ思ヒ半ニ過クルナルヘシ夫レ豫

算ナルモノハ例ヘハ議按ニ七千二百圓警部三十人月給ト掲ク之ヲ
 議定スルニ當リ其警部ヲ設置スルヲ便否ヲ審究シ之ヲ増減スルノ
 議アレハ其金額ト人員トヲ併セテ決ヲ取り彼此分別セサルヘシ是
 レ即チ現行法律ノ主義ナリ抑府縣會ヲシテ經費ノ豫算ヲ議定スル
 ハ本邦ニテハ昨年ヲ以テ始トス歐洲諸國ニテハ之ヲ行フ既ニ久シ
 キモ行政ノ權力強キ所ハ尙今ノ我議權ヨリ狭少ナルモノアリ本邦
 ノ如キ早クモ本年度ヨリ十二費目ヲ十二次ニ議決シ甲乙互ニ流用
 スルヲ得セシメサルニ至ルハ是人民ニ十二分ノ權ヲ付與シタル
 モノニシテ府縣會ノ權限ヲ擴充セシト云フモ斷シテ不可ナカラシ
 然ルニ猶飽クヲ知ラサレハ寧ロ十二費目ニ就テ修正説ヲ提出ス
 ヘシ畢竟事件ノ字ヲ加フルニ於テハ行政上ニ議及スルノ弊害ヲ生

スルヲ以テ之ヲ不可トスルナリ

○一番玉乃
世辰

内閣委員ノ説ニ據レハ豫算ノ字ハ經費ノ豫算ニアラス
シテ區別ノ豫算ト言フヘキナリ原來經費ノ豫算ト言フハ鉄橋ハ其
費如何木橋ハ其費如何ト云フカ如キモノニシテ各自區別シテ用フ
ルコトハアラス例ヘハ警部ヲ千人設クルカ將タ百人命スル乎ト云フ
ニアラス千人ナレハ其費如何百人ナラハ其用如何ト云フ如キ是レ
ナリ内閣委員ハ頻リニ誤解ノ一言ヲ以テ攻撃スト雖モ豫算ノ字ヲ
區別ト解セシムルハ人ノ讀ムヲ得サルノ讀法ヲ以テ之ヲ讀ムヘシ
ト責ムルニ異ナラス本官ハ益々修正ノ見ヲ固クセリ

○二十四番山口
尙勞

本官ハ慢リニ府縣會ノ權限ヲ廣狹スルコトヲ明言
スルニアラス只社會ニ幸福ヲ與ヘ損害ヲ除クヲ以テ本分ト爲スノ

ミ抑事件ノ字意ハ一番ノ陳述ニテ明瞭敢テ一辭ノ容ルヘキナシ其
文字ヲ掲載セサルヘカラサル所以ハ噲ヘハ地方官カ木橋ヲ石橋ニ
シ石橋ヲ鉄橋ニセントスルハ府縣會ノ議スル所ニアラス只其經費
金ト徵收方法トヲ議スヘシト云ハ、如何ソヤ其歸局スル所必ス訴
訟トナルヘシ然レトモ是原ヨリ法律ノ不明ヨリ生シタル争ヒナレ
ハ法官モ亦之カ判決ニ苦シムナラン之ヲ歐米ノ法例ニ照シテ處斷
セン乎歐米各國ハ其議スヘキ事件ハ大同小異ナリト雖モ皆法律ニ
明載セサルハナシ其費目ノ豫算方法ニ於ケルモ亦全シ然ハ則チ裁
判官ハ其地方官ノ請求ハ理由ナシト判決セサルヲ得ス畢竟事件ノ
確定セシ上ニアラサレハ其豫算ニ議及スヘカラサルヲ以テ本官ハ
判然其事件ヲ定ムルヲ法トセント欲スルノミ決シテ慢ニ權限ヲ廣

狹スルニアラサルナリ

○外一番 今村和郎

目下ノ問題ハ詮スル所議按外ニシテ本按ニ就テハ未
タ一ノ異議アルヲ聞カス然ルニ之ヲ閣キ議按外ヲ決ヲ取ルハ委員
ニ於テ甚々迷惑ナリ冀クハ先ツ本按ノ可否ヲ決シテ後二十四
番修正説ノ決ヲ採ラレンコトヲ建議ス

○八番 細川潤次郎

特別ノ建議ヲ爲サン其大要ハ二十四番ハ午前ニハ本
按ヲ可トシ第一條ヲ修正ス可シト論シ午後ニハ第一條ヲ修正セサ
レハ本按ハ否ナリトシ原按ニ事件ク字アレハ之ヲ取ルヘシト云フ
カ如シ此説前後撞着セリ是レ畢竟自家ノ思想ヲ述フルモノト認メ
ハ敢テ妨ケナキモ獨リ恠シム三名ノ修正委員ニシテ各自其論ヲ異
ニシ本按ヲ不可トスルモノアルヲ但從來修正ハ多數ニ決スルヲ以

テ委員ヲ奇數ニ撰フハ豫シメ其混雜ヲ防クカ爲メナリ然ルニ今ヤ

第一條ノ修正行ハレサレハ寧ロ第十八號布告ノ舊ニ復スヘシト明

言スルニ至リシハ何ノ故ソヤ之ヲ以テ見レハ委員モ其説一致セリ

トハ認メ難シ又二十四番ノ説ハ議按外ナレハ更ニ別段ノ意見トシ

テ其意見書ヲ提出シ此第五條ハ再ヒ從來ノ修正委員ニ付托シ其報

告ヲ俟テ之ヲ決スヘシ否ヲサレハ議場ノ整頓ニ妨アルヲ恐ル、ナ

リ

○九番 神田孝平

賛成

○議長 八番ノ建議ニハ賛成者アルヲ以テ其可否ヲ決セン若シ之ニ

可決セハ本條ハ再ヒ委員ニ付托シ而シテ第四號ニ移ルヘシ

○十三番 楠田英世

二十四番ノ説ハ變則ナレトモ已ニ問題トナリタル上

ハ先ツ其決ヲ取り後ニ八番建議ノ決ヲ取ランコトヲ建議ス

○議長 八番ヨリ此第五條ハ委員ニ再附スヘシトノ建議アリ十三番

ハ先ツ二十四番ノ説ニ決ヲ取り而シテ後八番ノ建言ニ決ヲ取ルヲ

要請セリ乃チ之ヲ衆議ニ決セントス先ツ八番ノ建言ヲ可トスルモ

ノハ起立セヨ

起立者八人

○議長 多數ニヨリ八番ノ建議ニ決シ本按ハ再ヒ前修正委員ニ付托

シ其報告ヲ俟テ再議ニ付スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第四號議按

明治十一年第十八號布告第六條改正按

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方税ニ係ル前年度

ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ其異見アル者ハ議長ノ名ヲ以テ直チ

ニ内務大藏兩卿ニ上申スルヲ得

○八番 細川 潤 次郎 本按ヲ修正セントス十一年第十八號布告第六條ハ府

縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方税ニ係ル前年度ノ出納決算

ノ報告書ヲ受クトノミアリテ結尾ナキカ如シ依テ這般其意見アル

者ハ議長ノ名ヲ以テ云々ト添加セシハ稍可ナリト雖モ其出納決算

ニ於テ不審アルトキハ一應之ヲ尋問シ其説明ヲ求ムルコトナカルヘ

カラス本按ニ由レハ其説明ヲ求ムルヲ得ス且直ニ上申スルヲ得ル

モ其裁決ヲ受クルコトナシ此ノ如キハ若シ其地方官ニ濫用浪費ノ痕

跡アルモ之ヲ問フヘカラサルモノ、如シ然ルニ此時機ニ至ラハ議

會ハ其不審ヲ地方官ニ質シ其説明ヲ求ムルヲ得又其裁決ヲ内務大藏兩卿ニ受クルヲ得セシムルヲ以テ首尾相應スト云フヘシ仍テ本按ハ其意見アル者ハノ下文ヲ改メ即チ府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ其異見アルモノハ府知事縣令ニ説明ヲ求ムルヲ得若シ其説明ニ服セサルハ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務大藏兩卿ニ上申シテ裁決ヲ乞フヲ得ト修正セント欲ス此ノ如クセハ官民ノ間ニ風波ヲ生スルノ憂ナク律文ノ体裁モ亦整齊具備スヘシ幸ニ各位ノ賛成アラシムルヲ希望ス

○二十六番 伊丹重賢 賛成

○議長 八番ノ説ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○番一 今村和郎

八番ハ地方官ト議會トノ際ニ風波ヲ生スルヲ恐ルレ
 此本條ハ即チ其風波ヲ防クノ精神ナリ請フ其故ヲ説カン前ニ第十
 八號布告議定ノ時ニ方リテハ本條ノ末文ニ之ヲ審査スルヲ得ル
 トアリ當時審査ノ字アレハ風波ヲ生スルノ根元ナリトシ報告書ヲ
 受ルニ止メタレトモ猶完備セサルヲ以テ此ノ如ク修正ヲ加ヘタル
 ナリ故ニ文中説明云々ノコヲ明記セサルモ決シテ其説明ヲ求ムル
 能ハサルニアラス又上申スルヲ得ルニ止メ其裁決ヲ請フヲ得ト明
 載セサルハ議會ヨリ其裁決ヲ請フ毎ニ内務大藏兩卿ハ地方官ニ對
 シ是非曲直ヲ問訊スルハ不都合ナリトスルニ依レリ若シ地方官ニ
 於テ甚ダシキ不都合アラハ其議會ノ訟ヲ待タスシテ之カ處分アル
 ハ明カナレハ本案ハ修正ヲ要セサルナリ

○議長 二十七番楠本正隆ハ他ノ公用アリテ退席セリ各員之ヲ了セヨ

○十三番楠田英世 和蘭ノ規則ニハ議員中ノ監督者即チ主辨官及ヒ州長

カ議會ニ出テ其辯明ヲ爲スノ制ナリ本官ハ右等ヲ斟酌シテ修正案ヲ第三讀會ニ提出セント欲ス併シ實際上委員ノ説ク所ノ如クナレハ本案ニ議決スルモ亦敢テ妨ケナカラシ

○議長 八番ノ動議ヲ可トスルモノハ起立セヨ
起立者七人

○議長 多數ナルニヨリ八番ノ動議ニ決ス

書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第五號議案

明治十一年第十八號布告第七條改正按

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利

害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議會ノ

許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長

ノ名ヲ以テ直ニ内務卿ニ建議スルヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トシタルヲ以テ本按ニ決ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第六號議按

明治十一年第十八號布告第九條第二項增加按

府縣會ハ議員ノ招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者

ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得府知事縣令ノ認可ヲ要セス
 ○二十四番山口 尚芳 本按ハ修正ヲ加ヘント欲ス即チ府知事縣令ノ認可
 ヲ要セスノ十二字ヲ削除シ府縣會ハ議員ノ下内ノ一字ヲ加フヘシ
 只議員ノ招集ニ應セス云々トスレハ全体ノ議員ニ當リテ一名ニ適
 セサルヤノ疑ヒアリ

○八番細川潤 次郎 賛成

○議長 二十四番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○一番玉乃 世履 府知事縣令ノ認可云々ノ十二字ヲ加ヘタル理由ハ第三
 號議按ノ冒頭ナル「第一條ニ掲ケタル」ノ八字ヲ削除シタルニ依レリ
 故ニ若シ本條ノ十二字ヲ削除スルノ說ニ傾向セハ本按モ第三號ト
 同ク委員ニ再付托ナランコトヲ望ム蓋シ先ニ後條ヲ決シ後ニ先條ヲ

決セハ或ハ恐ル「第一條ニ掲ケタル」ノ八字更ニ第五條ニ加フルニ至
 ランコトヲ

○九番神田 孝平 本官モ委員ノ一人ナレハ之ヲ辯セサルヘカラス本條ハ
 即チ第九條ノ增加按ニシテ其第一項ニハ府知事縣令ノ認可ヲ要ス
 ト云ヒ本條ニハ之ヲ要セサル者ナレハ府知事縣令云々ノ十二字ヲ
 加ヘタルナリ仍テ之ヲ削除スルハ不可ナリトス

○十三番楠田 英世 府知事縣令云々ノ十二字ハ刪ルモ刪ラサルモ大徑庭
 アルコトナシ本按ニテ可ナリ

○二十四番山口 尚芳 修正委員ノ說ハ一應理アルニ似タリ且府縣會ノ要
 則ハ多ク認可ヲ得ルモノト爲スモ本按ノ如キ特ニ議決ヲ要セサル
 場合ニ於テ殊ニ認可ヲ要セストノ字ヲ加ヘサルヲ可トス已ニ第四

號及ヒ第五號中ニモ認可ヲ受クルコト云ハス此例猶多シ委員ノ願
慮ハ或ハ杞人ノ憂ニ庶幾ラン

○八番 細川潤
次郎

府知事縣令云々ノ十二字ハ刪ルモ刪ラサルモ敢テ軒

輕ナシト云フノ説アリト雖モ今之ヲ取捨スルニ於テハ寧ロ削除ヲ

可トス設シ本按ヲシテ他條ナラシメハ之ヲ削除セハ或ハ分明ヲ欠

クヘキモ畢竟本條ハ第九條ニ追加スヘキモノニシテ其第一項ニハ

認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ云ヒ其第二項即チ本條ニハ決スルヲ

得トアリ是レ認可ヲ受ルヲ要セサルハ明々白々ナリ故ニ云ク削除

ヲ可トスト

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン二十四番ノ動議ヲ可トスル

モノハ起立セヨ

起立者七人

○議長 多數可トシタルヲ以テ二十四番ノ説ニ決シ此ニ本會ヲ閉チ

明日例刻ヨリ引續ノ會ヲ開ク可シ散會セヨ

午後第四時四十三分開場

十番	水本 成美
十二番	岩下 方平
十五番	大給 貞恒
十七番	秋月 種樹
十八番	東久世 通禧
十九番	津田 出
廿五番	河田 景與
廿六番	伊丹 重賢
廿七番	楠本 正隆
廿九番	柴原 和
三十番	鶴田 皓

内閣委員 番外 内務少書記官 今村 和郎

午前第十時廿四分開場

○議長 本日ハ議長他ノ公務ニヨリ本官代理ヲ爲シ即チ第百七十五號議按第二讀會ノ續會ヲ開ク例ニ依リ發議スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第七號議按

明治十一年第十八號布告第十一條第一項改正按

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ之ヲ府知事縣令ニ報告

シ府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告ス可シ

○議長 發議ナキヲ認ム本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第八號議按

明治十一年第十八號布告第十三條第五款增加並第十四條但書

改正按

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコ

ヲ得ス

○八番 細川潤次郎

本按ノ但書及モ題號ニ增加并第十四條但書ノ九字ハ

刪除スヘシ今之ヲ刪除セハ或ハ第一第二第三款ニ方ルモノモ選舉

人タルコヲ得ルヤノ疑ヒアルモ知ルベカラスト雖モ是決シテ然ラ

ス即チ明治十一年第十八號布告第十三十四兩條ノ本則ニ判然ナレ

ハ固ヨリ其選舉人タルコヲ得サルハ明了ナリ且其第五款ニ觸ル

モノト第一款第二款第三款ニ方ルモノトハ其理由大ニ相反スル所

アリ第五款ハ即チ府縣會ノ招集ニ應ヒヌ又ハ事故ヲ告ケスシテ不

參スルモノ等ナリ然ルニ斯輩ハ議會ヲ輕視シタルモノナレハ其權

理ヲ剝奪スルハ至當ナリトノ說アルヘシト雖モ其招集ニ應ヒヌ又

ハ事故ヲ告ケスシテ不參スルモノ、如キハ逆意ヲ挾ミ故ラニ爲ス

者ト其事情ヲ同視スヘカラサルナリ然ルニ本按ノ如クセハ特ニ被

撰人タルヲ得サルノミナラス併セテ撰舉人タルコヲモ得サラシム

ルニ至ルハ法理ニ於テ穩當ラ欠キ太々苛酷ト謂フヘシ蓋シ本條ハ

議員ノ招集ニ應ヒヌ故ナク不參スル者ノ罰則ト見認マサルヘカラ

ス已ニ懲罰セラレ其退職者トナリシモノハ四年ノ後ニアラサレハ其被撰權ヲ復有スルヲ得サルハ事ニ於テ至當ナリト雖モ此但書ノ如クセハ一般普通人民ノ保有セル撰舉權ヲモ併セテ剝奪スルモノナリ而シテ其罪ノ源由ヲ問ヘハ或ハ官吏ノ登衙ヲ怠リタルト同ク僅々一片ノ書ヲ以テ不參ノ事故ヲ告クルアラハ免職ニ至ラサルヘキニ如何セン法律ヲ以テ論スルキハ退職者タルヲ免カレサルナリ故ニ本人其議員タルノ職ニ怠ルノ罪ヲ以テ之ヲ退職セシメ猶其上ニ四年間被撰人タルヲ得ストセハ足レリトス故ニ本官ハ退職ノ後四年ヲ經サレハ被撰ノ權ヲ得スト云フハ可ナルモ其撰舉權ヲモ剝奪スルカ如キ附加ノ刑アルハ太タ酷ナリトス乃チ修正說ヲ提出スル所以ナリ

○十五番 大給 恒 八番ノ修正說ヲ賛成ス抑議員ノ其職掌ニ怠慢ナル罪

ハ惡ムヘシト雖モ既ニ之ヲ退職者トシ四年間被撰ノ權ヲ奪ヘハ足レリトス更ニ其撰舉ノ權ヲモ併奪スルハ酷ナラスヤ若シ之ヲシテ官吏ナラシメハ其長官ノ處置ヲ以テ譴責或ハ罰俸ニ止マリ其公權ヲ奪フニハ至ラサルヘシ本按ノ如クシハ懲役一年實決ノ刑ニ處セラレタルモノト同一視スルニ在リ豈苛酷ナラスヤ

○議長 八番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○一番 玉乃 世履 本官ハ修正委員ナリ依テ本按ノ更ニ一字ヲ加損スヘカラサル理由ヲ述ヘントス抑退職者トセラレタル者四年ヲ經サレハ撰舉權ヲ有スルヲ得ストスルモ其法苛酷ト爲スニ足ラス已ニ當撰人トナルハ衆人ノ委托ヲ受ケタル者ナレハ其意見ノ議場ニ貫徹ス

ルヲ希望スルヤ必セリ故ニ其職掌ニ怠リ退職者トセラレタル者ハ
 全ク其撰舉ノ權ヲ失フハ當然ナリ何トナレハ衆人ノ附托物ヲ議場
 ニ達スルコトヲ得サレハ其爲メニ衆人被フル所ノ損害ハ大ナリ此
 償トシテ纔カニ四年間被撰人トナルヲ得サルノミナルトキハ權
 衡宜シキヲ得ス原按ニ撰舉人タルヲ許サストナルハ理ノ當サニ然
 ルヘキコナルヲ以テ本官等ハ之ヲ採用セシナリ衆人ノ希望ヲ失ハ
 シメタル報ニ自カラ人ヲ撰ムノ權ヲ失フハ豈當然ナラスヤ

○二番齋藤利行 本按ヲ可トス其理由ハ已ニ一番ノ陳述ニ盡セリ元來當
 撰人トナルノ望ヲ負フ者ナレハ其義務固ヨリ盡サ、ルヘカラス然
 ルニ是ヲ怠リテ退職者トセラレシモノナレハ四年間其撰舉權ヲ失
 フハ當然ノコナリ道理上ヨリ之ヲ視レハ或ハ苛酷ナルカ如キモ今

日ノ實況ヲ視ルキハ人民猶議員トナルヲ厭フ如キノ情狀ナキニテ
 ラス然ラハ之カ懲罰ヲ嚴重ニスルハ自カラ然ラサルヘカラスモ
 ノナリ決シテ苛酷ニ過クルヒアラヌ

○外一番今村和郎 八番ノ論點ハ一ニ曰ク法理ニ背ク二ニ曰ク苛酷ニ過

クト而シテ其說理ハ畢竟府縣會議員ノ故ナク不參欠席シ退職者ト
 セラル、者ハ官吏ノ登衙ヲ怠リテ免職セラル、モノト同一ナルヲ
 以テ之ニ退職ヲ命ヌルモ更ニ其公權ヲ奪フハ不可ナリト云フニ過
 キス然レモ議員ノ退職ト官吏ノ免職トハ其旨趣自ラ異ナリ既ニ其
 人議員トナルヲ得サルモノナレハ又其之ヲ撰ムノ權ヲ失フハ當然
 ノ理ニシテ素ヨリ法理ニ背クモノニアラス又苛酷ニ過クルトノ說
 アリト雖モ被撰權ヲ有スル者ハ地租十圓以上ヲ收ムルモノニシテ

撰舉權ヲ有スル者ハ地租五圓以上ヲ收ムルモノナリ然ルニ撰ト被撰トノ輕重如何ヲ問ヘハ却テ撰舉人ヲ重シトス蓋シ此說ノ如キハ歐洲各國ニ於テモ大ニ行ハル、所ノモノナリ近時本邦ニモ亦其納租十圓ト五圓トヲ變換スヘキノ說アリ思フニ遠カラスシテ彼是酌量シテ其制ヲ定メサル可ラサルニ至ラン又府縣會議員ノ官吏ト同一ナラサル所以ハ議員ハ衆人ヨリ給料ヲ受ケス只其付托ヲ受タルヲ以テ最モ榮譽アリトナスモノナリ故ニ其負擔シタル義務ヲ輕蔑シ之ニ怠ルハ實ニ人情ニ悖戾スル者ナリ仍テ法理ニ由リ權衡ニ取リ實際ニ徴シテ本條ノ但書ト爲セリ何ノ不可カ之レアラン

○八番 細川潤次郎 本官ハ到底之ヲ法理ニ背ク者トス抑撰被撰ノ兩權ハ皆公衆ノ特權ニシテ人ノ最モ尊ムモノナリ已ニ退職者トセラレタ

ル人モ亦公權ヲ有スルヤ明ナリ然ラハ其退職ノ後四年間被撰權ヲ剝奪セラル、ハ從テ事理ニ協フト雖モ併セテ剝奪ヲ其選舉權ニ及ホスハ太タ不可ナリ且委員ハ官吏ト議員トハ其性質自カラ殊ナリト云フ是レ夫レ然リト雖モ其登衙ヲ怠リタルト其招集ニ應セサルト秩序ヲ失シタルニ於テハ則チ一ナリ而シテ一ハ免官シ一ハ退職者トシ免官吏ハ某年間官途ニ就クヲ許サス議員モ亦四年間被撰權ヲ得スト云フモ其由テ來ル所太タ相似タルモノナリ故ニ本官モ四年間其被選權ヲ奪フハ至當ナリトス然レトモ猶加フルニ一ノ撰舉權ヲ併奪セントスルハ甚タ酷ナラスヤ且撰マレテ議員ト爲ルト人ヲ撰テ議員トナストハ無論大ナル輕重異同アリ固ヨリ之ヲ一概ニ視ルヘカラス或議官ハ議員ハ衆人ノ附托ヲ受ケ其意見ヲ貫徹セシ

ムル者ト言ト雖モ縱令其選舉人タルモ幾千人ノ意匠ヲ一々負荷シ
テ之ヲ辨理スヘシト云フニ至ラハ是決シテ堪ユヘキモノニアラス
如此ハ府縣會ヲ興スノ意ニアラス唯其人ハ其地方ニ人望アルヲ以
テ已ニ議員ニ撰マレタルモ只其招集ニ應セサルノ故ヲ以テ退職者
タルニ至レハ人民ハ之ヲ失望セリト云テ可ナリ之ヲ總理代人ノ委
托ヲ空クセシ如クニ論及スルハ不可ナリトス又第六號議按ニ云ク
招集ニ應セサルモノ事故ヲ告スシテ參集セサルモノトアルハ畢竟
其招集ニ應セス其勤務ニ怠ルト云フニ止マルナリ然ルヲ尙一層ヲ
進メ人心ニ立入り想像ヲ以テ其心事如何ヲ論スルカ如キハ素ヨリ
法律ノ爲スヲ得サル所ナリ又之ヲ爲スヲ要用トセス法律既ニ此ノ
如クナレハ纔カニ一回招集ニ應セサルカ又ハ事故ヲ告ケスシテ不

參セシ由ハ直ニ法ニヨリ之ヲ退クヘシ而シテ其人ノ意匠ヲ問ヘハ
一紙ノ届ケ書ヲ失念セシ迄ノコナリ之ヲ以テ忽チ其撰舉權ヲ剝
奪セントスルハ苛酷ニアラスシテ何ソヤ

○二十九番 柴原和

本官ノ所見ニテハ第六號議按ノ第二項ヲ加フルハ
議會ヲ重シスルノ精神ナリトス實際府縣會ニ於テハ往々故ナク議
員ノ出席セサルコアリ仍テ本按ノ如クシテ可ナリ或議官ハ權理ヲ
奪フト言フト雖モ其之ヲ奪フコアルニ至ラサレハ議員ノ貴キヲ見
ルニ足ラス其權衡ハ官吏ノ途中ヨリ疾病等ヲ以テ不參スル如キノ
比ニアラス第九條ナル審査ノ二字ハ眼目ニシテ議員ハ衆人ノ望ヲ
屬スルモノナリ然ルニ之ヲ自カラ輕蔑シテ退職者タルモノハ其權
ヲ失フハ素ヨリ當然ナルヘシ本條ノ但書ハ前條ト相依リタルモノ

ナリ故ニ本按ヲ可トス

○一番玉乃

或議官ノ説ニ撰擧權ハ實ニ貴重ナリ之ヲ奪フヘカラス

ト云フは大ニ理アリ然レモ既ニ其權ノ重キヲ知レハ之ヲ奪ハサル

ヲ得サルノ理アルニアラスヤ其人ヨリ付托セラレタル任ヲ空クシ

タレハ以テ自己ノ人ニ付托スルノ權ヲ消滅スルハ是固ヨリ當然ノ

コナリ例ヘハ原被告村々ノ惣代人トナリテ法庭ニ出ル時ニ方リ被

告村ノ惣代ヲ付托セラレタルモノニシテ故ナク欠席シ其訴訟不利

トナリシコアラハ猶罪ナシトスルヤ是事件ハ相異ナリト雖モ付托

ヲ怠ルノ道理ハ即チ同一ナリ故ニ其被告村ニ於テハ該惣代人ニ向

ヒ償ヲ求ムルノ權利アリ又被撰人ハ良シヤ衆選舉人ノ意ヲ全フス

ルコヲ得サルモ之ヲ満足セシムヘキ義務アリ然ラハ各個人ノ意見

ヲ盡ク全フスヘキヤト言フニ未タ議場ニ上ラサレハ其何ヲ議スヘ
キヤ得テ知ルヘカラス但正當ノ理ニ基ケハ利ヲ取り害ヲ防キ選舉
人ノ幸福ヲ保護スルノ性質ヲ固有スルモノタリ然ルニ其職務ニ怠
リ退職者ト爲リタル者ナレハ其償トシテ選舉權ヲ奪ハル、ハ相當
ノ道理ナラスヤ

○一番今村

八番ハ原按ヲ目シテ法ニ違フ者トナス豈夫然ランヤ

第十三條ノ第二款第三款ハ社會ニ妨害ヲ爲スモノナルニ依リ其被

選撰擧ノ兩權共ニ剝奪シタルナリ苟モ議員トナリ其義務ニ怠リ退

職者タルモノハ夫ノ身代限云々ノモノト比較セハ其罪却テ重シ此

類ヲ選舉人ヨリ驅除スルハ府縣會ヲ貴ンテナリ府縣會ヲ貴フハ即

チ社會ヲ貴フナリ八番ノ其人權ヲ貴フノ意ハ美ナリト雖モ是府縣

會ヲ貴ハス府縣會ヲ貴ハサルハ社會ヲ貴ハサルモノナリ其輕重ヲ比較スレハ苟モ一人ヲ貴フヨリ寧ロ社會ヲ貴フヲ以テ重シトセサルヘカラス然ラハ怠慢者ハ其權ヲ奪フト爲サ、レハ其權衡ヲ得サルナリ

○十五番 大給恒 委員ハ第九條ノ第二項ハ府縣會ヲ貴ヒ之ヲ獎勵スルノ意旨ヲ以テ設立セルモノト云フト雖モ太タ否ラス只退職者ハ自カラ其權利ヲ拋棄セシ者ナレハ四年間再議員タラシメサルヲ以テ足レリトス本條ハ其一方ノ拋棄ヨリ他ノ一方ヲ奪フカ爲メ未タ拋棄セサルノ選舉權マテヲ併奪スルハ恰モ私罪ヲ犯シテ懲役一年以上ニ處セラレタル者ト同一ニ爲サントスルノ主義ナリ假令之ヲ懲罰ト見ルモ酷モ亦甚シカラスヤ蓋シ本條ハ其怠惰者ヲ罰シテ府縣

會ヲ貴ハシムルノ原旨ニ出ルモノニアラスシテ其退職者ヲ直ニ再用スルヲ停止スルニ止マルノ精神ナレハ素ヨリ選舉權ヲ奪フニハ及ハサルナリ仍テ但書ヲ刪ルヲ可トス

○十七番 秋月種樹 本官ハ八番ニ同意ナルヲ以テ茲ニ一言ヲ加ヘントス本條ハ權理ヲ以テ主眼ト爲ス現ニ本院ノ議定ニ付セラレタル刑法草按中ニ國民ノ特權ナル者アリ是レ最緊要的ノ事ナリ僅カニ退職者トナリタル罪ト懲役一年以上ノ罪ト同一視スルハ甚タ不權衡ナラスヤ政府人民ニ政權ヲ付與スル以上ハ之ヲ退職者ト爲シ其四年間ノ復權ヲ止ムルヲ以テ足レリトス何ソ其選舉權ヲ奪フヲ須ヒンヤ

○議長 時既ニ正午ニ達スルヲ以テ少時散會スヘシ

午後零時八分閉場

午後第一時開場

他ノ公務ヲ
以テ退席ス

十番 水本 成美

全 十五番 大給 恒

全 十七番 秋月 種樹

全 十九番 津田 出

全 三十番 鶴田 皓

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク八番ノ修正說ニ向テ發議スヘシ

○四番 津田 眞道 本官ハ八番ニ同意ス本按但書ノ如キハ其退職者ヲ以テ

社會ニ妨害ヲ爲シ懲役ノ刑ニ處セラレタルモノト同一ノ處分ヲ爲

スハ太タ不當ナリ特ニ其招集ニ應セサルモノニハ種々ノ理由アリ

或ハ職務ヲ怠慢シ或ハ議會ヲ輕蔑スルニ出ルモノアルヘシト雖モ

亦即急疾病等ノ如キ其事故ヲ告クルノ暇ナキモノモアルヘク且ヤ

第九條第二項ヲ設ケタル上ハ辭職ヲ請フノ煩勞ナクシテ自カラ職

ヲ退クヲ得ヘシ縱令榮譽ノ職タリトモ辭職ヲ請フヲ得サルノ理由

アルヲナシ故ニ選舉セラル、モ公益ト私益ト並立スルヲ得セシム

ヘシ若シ其私益ヲ捐テ公益ニ從事スヘシト脅迫スルハ不可ナリ是

レ即チ財產ヲ所有スルモノヲ選舉スルノ源由ナリ是ヲ以テ時トシ

テハ其一身ノ爲メ一家ノ爲メニ議員トナルヲ得スシテ辭退シタ

ルモノモ均ク是レ退職者タルニ相違ナシト雖モ其特有ノ權ハ停止

セラレサルヘシ既ニ辭退シタル者モ此規則アル以上ハ決テ罪ヲ得

ルコハナキナリ然レハ自カラ其權ハ拋棄シタリト雖モ人ヲ選舉スルノ權ヲモ併奪スルノ理ハ萬アルヘカラストス其權ハ...

○議長 八番ノ動議ヲ可トスルモノハ起立セヨ
起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ動議ハ消滅ス即チ原按ニ決ス
書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第九號議按

明治十一年第十八號布告第十七條改正按

第十七條 選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被撰人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年

ナラハ關ヲ以テ之ヲ定ム

但、、、

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス
書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十號議按

明治十一年第十八號布告第二十四條改正按

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉住スルカ其他總テ欠員アルキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰擧ス

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十一號議按

明治十一年第十八號布告第三十五條改正按

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタル日

ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十二號議按

明治十一年第十九號布告第三條中改正增加案

第三條 地方税、

一警察、

一河港、

一府縣會、

一衛生費

一府縣立、

一郡區廳、

一郡區吏員、

一 教育費

一 浦役場、

一 管内限、

一 勸業、

一 戸長以下給料及戸長職務取扱諸費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費 豫算外ニ生シタル費用ニ充ツヘキモノヲ云

各町村、

、

○八番 細川潤次郎

本按ニハ往々修正ヲ欲スル者アリ然ルニ事數項ニ涉

レハ一修正毎ニ一問題トナシ決議セラレシコトヲ建議シ續テ修正説

ヲ提出セントス抑衛生費ノ一項ハ第十八號布告中流行病豫防費ト

アルヲ改正セシモノニシテ太々至當ナリトス苟モ人タルモノハ平

生衛生ニ注意シ人身ノ健康ヲ保護スヘキハ論ナシ素ヨリ流行病ノ

ミヲ豫防スルニアラス又該布告中ニ病院及教育所諸費トアルヲ這

般之ヲ教育費ト改メ病院費ノ目ヲ刪レリ之ヲ委員ニ問フニ衛生費

中既ニ病院費ヲ含蓄セリトノ説明アリ然ルニ衛生トハ其平生ニ屬

シ未發病ノ時ヲ指スナリ其既發病ニ至テハ衛生ト云フヘカラス今

病院費ノ明文ナキトキハ或ハ既發病ハ關スル所ニアラサルカトノ

疑問ヲ來サハ之ヲ如何スヘキヤ仍テ之ヲ衛生及病院費ト修正セハ

完備ナルヘシトス

○二番 齋藤利行

賛成ス起草者ハ衛生費中ニ病院費ヲ含蓄セシ意ナルヘ

シト雖モ病院ノ字ナキトキハ之ヲ見ルモノ往々疑ヲ生スヘシ若シ
果シテ衛生費中ニ含蓄セシ者タラハ其疑ヒヲ生セサル爲メニ之ヲ
明記スルヲ可トス且本按ハ頗ル多項ナルヲ以テ分別シテ決ヲ取ラ
シトノ八番ノ建議モ允當ナリ仍テ併セテ之ヲ贊成ス

○議長 贊成アルヲ以テ八番ノ說ヲ問題トナス

○九番 神田 孝平 原按ヲ可トス衛生トハ生命ヲ保護スルノ稱ナリ敢テ其

健康ト疾病トヲ間ハスシテ可ナリ

○八番 細川 潤 次郎 或議官ハ衛生ノ字解アリ其說或ハ理ナキニアラスト

雖モ近來ハ外國ヨリ輸入ノ字多シ即チ衛生ハ健康健全ト云フノ意
ヲ原語ヨリ譯出シタルモノニシテ素ヨリ病院ノコヲ含有セサルナ
リ蓋シ人ノ身体常度ヲ失ハサルヲ要スルヲ學之ヲ健全學トス其健

全ヲ失フモノヲ治スルノ學ヲ療病學トス己ニ學科上ニ於テ兩科ヲ
分ツヲ以テモ其別アルヲ見ルヘシ今衛生ト云フモ一ノ熟語ニシテ
他ノ病院ニ及ハサルヤ明カナリ且本官ハ衛生ハ健全ノ一端ニシテ
病院ハ含有セストナシ或說ニハ衛生中ニ病院ヲモ含有セリト解ス
是ヲ以テ之ヲ推スモ或ハ恐ル各府縣會ニ於テモ亦其見解ヲ異ニス
ルモノアリテ爲メニ紛議ヲ生スルモ未タ知ルヘカラサルヲ故ニ今
此字ヲ加フルモ毫モ其意義ヲ害セス却テ之ヲ明瞭ナラシメ其見解
ヲ誤ラシメサルノ優レルニ如カサルナリ

○二十七番 楠本 正隆 病院ト云ヒ流行病豫防ト云ヒ教育ト云フハ皆從來

慣熟ノ語ナリ衛生ト云フ如キ高尚雅馴ナル文字ヲ用フルハ太々要
用トセス元來地方ノ病院ハ概チ救恤ヲ以テ主ト爲スニヨリ教育費

ト聯絡セシハ其故アルナリ然ルヲ今衛生トノミ掲クルトキハ必ス誤テ病院ヲ除クニ至ラン是甚タ不可ナル所ナリ依テ八番ニ賛成ス

○一番玉乃 世履 本官モ修正委員ナレモ八番ノ説ハ明瞭ナルヲ以テ之ヲ賛成ス

○外一番今村 和郎 病院ノ字ヲ掲クレハ明瞭ナリト雖モ已ニ衛生費中ニ

施藥ノ事アリ然ルニ別ニ病院費ノ目ヲ掲クルトキハ施藥ヲ爲スコトヲ得ストノ疑ヒヲ來サンコトヲ恐ル且府縣ニハ既ニ衛生課ヲ設ケ病院ノ事ヲ管轄セリ能ク前後ニ注意シテ議決セラレンコトヲ望ム

○八番細川 潤 次郎 内閣委員ハ今病院ノ目ヲ掲クルカ爲メニ却テ施藥ヲ爲スヲ得サルノ恐レアリト云フモ是レ決シテ恐ルニ足ラス若シ之ヲ爲サント欲セハ病院ニ任爲セシメテ可ナリ病院ノ字アルカ爲

メニ施藥ノ止ムヘキ道理ハ見出ス能ハサルナリ

○二十九番柴原 和 八番ノ修正ハ否ナリ何トナレハ病院ノ二字ヲ加レ

ハ反テ本項ノ意味ヲ狹窄ス夫レ地方官ハ内務卿ノ達ニ由リ衛生課ヲ置キ病院等ヲ管理シ衛生ノ事務ヲ宏大ニセリ故ニ其間ニ病院ノ含蓄シタルヤ分明ナリ若シ修正説ノ如クンハ更ニ啞盲院等モ之ニ加ヘサルヲ得ス然レモ之ヲ加フレハ亦其意味ヲ縮窄スタトヒ今病院ノ字ナキモ實際療病ノ事ヲ爲サスト解スルカ如キモノハ恐ラクハ府縣議員ニハ之アラサラン

○八番細川 潤 次郎 道理ヲ以テ之ヲ推スモ病院ノ字ヲ加ヘテ始メテ其區域ノ廣濶ヲ致スヤ明ナリ然ルコト此三字ヲ添加セシヲ以テ其區域狹隘ナリトスルカ如キ見解ハ之ヲ下サント欲スルモ得ヘカラサルモ

ノナリ

○二番齋藤利行 向ニ八番ヨリ分別シテ決ヲ取ルヘキノ建議アリ今八番

ノ修正ノ項ノミヲ以テ決ヲ取ルヘキヤ又ハ第十二號議按全部ノ決ヲ取ルヘキヤ去就ヲ決スル爲メニ敢テ問ハント欲ス

○二十九番柴原和 病院ノ二字ヲ入ルハ到底不可ナリ例ヘハ勸業費ノ

目アリ其目中牧蓄アリ紡績アリ其他種々ノ事項ヲ含蓄スルト同一趣ニシテ衛生ノ字中ニ病院等ハ惣轄シテ漏サス故ニ府縣會ノ議員ハ病院ノ字ナキヲ以テ療病ノトニ議及シ得サルノ理ナシトス

○九番神田孝平 八番ノ言ノ如ク衛生ノ字ハ洋語ノ「サンタリ」ヨリ來ル

ヤモ知ルヘカラスト雖モ本按ニテ敢テ支障ナシトス衛生ノ範圍中ニハ病院ノトヲモ含蓄シタルモノトシテ可ナリ廿九番ノ說ハ分明

ナリ

○一番玉乃世履 八番ノ修正ニ對シ種々ノ論駁アリト雖モ病院ノ二字ヲ

加ヘサレハ大ナル迷惑ヲ生スルヲ恐ル若シ衛生ハ健全ノミニ關セスト云ハ、健全學ト治療學トノ區別ハ何ヲ以テ之ヲ爲シタルヤ例ヘハ治療ノトモ健全中ニアリト云ハ、健全ノトヲ以テ治療ト云フヲ得ルカ是レ決シテ然ラサルナリ既ニ其見解二途ノ分別アリ其他ノ迷惑ハ推テ知ルヘキノミ

○議長 八番ノ建議ノ如ク本條ハ數項アリ尙他ニ修正モアルヘシ仍テ之ヲ分別シテ決ヲ取ラントス八番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ修正ニ決ス

○八番 細川潤次郎

重子テ豫備費ノ項ヲ修正セントス抑豫算ハ素ヨリ確乎タルモノニアラス其過不及ナキヲ保タサルハ豫算ノ豫算タル所以ナリ例ヘハ家事ノ豫算ニ於テモ多少ノ餘裕ヲナシ置クニアラサレハ必ス不足ヲ生スルト一般本按十二費目ノ豫算モ亦然リ果シテ是レ若干ノ餘裕アルノ理ナルヲ以テ尋常ノ場合ニ於テハ其別ニ豫備費ヲ要スルニ及ハサルヘシ殊ニ十一年第十九號布告第五條改正按ニ非常ノ費用ハ云々トアリテ其豫算スヘカラサル天災時變ノ如キ非常ノ費用ハ乃チ臨時會ヲ開キ之ヲ賦課徵收スルヲ得ルノ法則アリ然レモ椅子或ハ洋氈ヲ購買スル等或ハ時價ノ高低アリトスルモ是自カラ豫算シ得ヘキモノナリ假令一ノ豫算ニ不足ヲ生スルモ亦他ニ剩餘ヲ生スルコアルヘシ如此論及セハ殆ト本項ヲ蛇足トシ

テ删除スルモ妨ナキカ如シト雖モ暫ク之ヲ存シテ可ナリトセハ即チ修正委員ノ删除セシ原文ヲ復シ豫算ノ不足ヲ補フモノヲ云ト爲スヘシ何トナレハ十二費目中ノ豫算ニ不足ヲ生スルコトハアルヘクモ豫算ノ外ニ生シタル費用ニ充ツヘキノ理由ナケレハナリ故ニ豫備費ノ下ノ分註ヲ删除シ更ニ豫算ノ不足ヲ補フモノヲ云ト修正セントス

○十八番 東久世通禧 賛成

○議長 八番ノ議ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 今村和郎 當初地方官會議ニ付セラレタル原按ニハ臨時費トアリシヲ修正シテ之ヲ豫備費ト爲シタルナリ元來豫算ハ意ヲ精密ニ

注キテ立ツルヲ以テ何ノ地方ヲ問ハス何錢何厘ト迄ニ記載スルヲ

例トス此ノ如ク精密ヲ主トスルモノナルヲ以テ亦敢テ大差違アル
 コナシ此豫備費ヲ使用スルハ所謂流行病ヲ防禦シ又ハ外賓ノ接待
 等ニ供スルハ素ヨリ豫算スヘカラサルモノタリ此場合ニ於テハ更
 ニ臨時會ヲ開キ豫算外ノ該費用ヲ補フハ當然ナリト雖モ臨時會ヲ
 開クニハ其度毎ニ必ス數千圓ノ入費ヲ要シ其僅ニ二三千圓ノ豫備
 アラハ之ヲ支辨スルニ足ルヘキモ却テ其開會ノ爲メニ一倍ノ金額
 ヲ浪費スルニ至ル故ニ寧ロ其豫備トシテ地方ノ都合ニ依リ或ハ一
 二萬圓金ヲ備ヘ置クトキハ公私ノ便利タル亦鮮少ナラス因テ此目
 ヲ設クルハ至要欠クヘカラサルモノトス

○一番玉乃 本官等カ原按ナル「豫算ノ不足ヲ補ヒ」ノ字ヲ刪リタル理
 由ヲ陳セン抑八番ノ説タル本官亦其理アルヲ知ル然レモ其八番ノ

○疑ヒヲ生スルハ即チ之ヲ刪リタルヲ以テナラン惣テ豫備費ハ何ノ
 爲メニ設クルヤト言ヘハ是預メ期スヘカラサルモノニ備フルカ爲
 メナリ若シ當初豫算セシトキヨリ物價俄ニ騰貴セシ如キ場合ニ方
 リ之ヲ補フモノナレハ彼ノ刪除セシ字句ヲ存シ此存シタル字句ヲ
 刪除スルモ其歸着スル所ハ同一ノ理ナリ之ヲ要スルニ同一ノコヲ
 循環シテ云フニ過キサルモノトス已ニ事實差支ナキトキハ其前ヲ
 刪リテ後ヲ存スルモ亦敢テ妨ナキニアラスヤ

○九番神田 孝平 八番ノ説ノ如クシハ其意味太々狹縮スヘシ夫レ豫算外
 ノ事トハ即チ十二費目ノ外ニ生スルモノニアラスヤ若シ豫算中ノ
 不足ヲ補フノミトセハ其豫算外ノモノハ之ヲ補フニ道ナカラン例
 ヘハ皇土ノ臨幸又ハ外賓接待ノ如キハ曾テ十二費目中ニ豫算セシ

モノニアラス然ハ則チ此場合ニ於テハ忽チ差支ヲ生スヘシ仍テ豫算云々ノ字ヲ刪リ豫シメ其料リ知ルヘカラス費用ノ豫備ヲナスナリ

○二番 齋藤 利行

本官ハ本按ヲ可ナリトス已ニ第十四號第五條モ云ヤトアレハ是或ハ重複ナリトノ見アルモ知ルヘカラスト雖モ今九番ノ説ノ如ク豫備費ハ全ク豫算外ノモノト見認メタルモノナリ且其第十四號第五條ノ挿注モ亦豫備費ハ豫算内ニ止マルヘカラスナルモノト思考セラル倘シ八番ノ説ノ如クセハ必ス其一方ニ不足ヲ生ス而シテ其不足タル如何ナル性質ヨリ來ルヤト問ヘハ即豫算外ニ生シタル費用ナリト答ヘサルヲ得ス仍テ本官ハ本按ニテ不可ナシトス

○八番 細川 潤 次郎

本官ノ所見ヲ以テセハ已ニ豫備費ト云ヘハ十二費目

中ノ豫算ノ不足ヲ補フモノト解セサルヲ得ス那ノ天災地變ノ如キニ應スルハ乃チ載テ第十四號ニアリ若シ之ヲシテ十二費目外ナリトセハ其何事タルヲ知ルヘカラス抑府縣規則第一章ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算トアル經費ハ即チ十二費目ナリ豫算ハ其經費ノ豫算ナラスシテ何ソヤ既ニ此ノ如ク費目確定セシニモ拘ハラス更ニ茫漠タル豫備費ナルモノヲ掲クルハ其理由ノアル所ヲ知ラス内閣委員ノ説ノ如キ流行病等ノ防禦費アラハ乃チ第十四號議按第五條ヲ以テ之ニ應シテ可ナリ盜賊暴行ヲ制スルカ爲メナラハ警察費ヲ以テスル可ナリ若シ彼ノ刃ランビ氏及ヒ伊太利亞皇族等ノ來朝アリテ之カ待遇如何ヲ議スヘシトセハ乃チ接待費ノ目ヲ掲ケテ始メテ之ヲ議スヘキナリ況ヤ右等ハ協議費ヲ以テ爲スヘキモ

ノナルニ於テヲヤ然ルニ論者ハ之ヲシモ此目ニ含蓄スルモノナリトスルハ所謂法律ヲ以テ強ヘカラサルモノヲ強ントスルナリ豈解セサルノ甚シキナラスヤ若シ夫レ論者ノ説ノ如クセハ府縣會議ハ何レノ點ニ至ルヤ其底止スル所ヲ知ルヘカラサルナリ本官ハ本規則第三條ノ本文ヲ原則トシテ十二費目ヲ設ケ而シテ其豫備費ハ即チ該費目豫算ノ不足ヲ補フモノト斷定セリ若シ之ヲシテ十二費目ノ外ナリトセハ本官將々何ヲカ云ン

○番令外和郎 向ニ外賓ノ事ヲ引証セシハ失言ナリ其十二費目外ニ地方稅ヲ支用スルヲ得サルハ素ヨリ原則トス蓋シ此豫備費ナルモノハ即チ地方官會議議按ノ臨時費是レナリ例ヘハ衛生費若干ト豫算セシモ虎列刺病流行等アリ或ハ米價ノ非常ニ騰貴シ新ニ其要ス

ヘキ豫算外ノ費用ヲ生スルトキハ乃チ此豫備費中ヨリ補助スルナリ若シ豫メ之カ目ヲ設ケサレハ其時ニ方リ俄ニ臨時會ヲ起シテ之ヲ議セサルヲ得ス而シテ之ヲ議セントセハ其費用ノ嵩ムヲ恐ル故ニ公私便利ノ爲メニ豫メ之ヲ備ヘ置クモノトス聞カ如キハ昨年ノ府縣會ニ於テ地方ニ由リテハ既ニ此豫備費ヲ設ケタルモノ多シト然レモ其法律ナクシテ妄リニ之ヲ設ケルハ即チ法律ニ背キタルモノト云ハサルヘカラス仍テ今之ヲ設ケ其便ニ供セントスルナリ然ルニ前ニ地方官會議ニ於テ本按中豫算ノ不足ヲ補ヒ及ヒフ十字ヲ加ヘテ之ヲ議定セリ畢竟疎漏ノ豫算ヲ補フ爲メニ増加セシモノト見認メテ可ナラン

○廿七番柴原 本按ヲ可トス第十四號第五條ハ非常ノ時ヲ指スナリ

本條ハ豫算外ニ生シタル費用ニ充ツヘキモノヲ云舊法ニハ該費用ヲ彼是流用スルヲ得ルモ今ヤ之ヲ許サス故ニ別ニ其融通ノ方法ヲ設クルハ自然ノ理勢ナリ向ニ十二費目外ニ豫備費ヲ支用スルト云ヒシハ是内閣委員ノ失言ナリト雖モ八番ノ説モ亦豫算ノ不足ヲ補ヒノ字ヲ存シテ十二費目ノ外ニ支用スルヲ得ヘシト云フハ豈失言ナラスヤ

○八番 細川潤次郎

本官修正ノ精神ハ其十二費目ノ外ニ出テサルハ論ヲ待スト雖モ若シ豫算外ニ生シタル費用ニ充ツヘキモノヲ云フトスルトキハ乃チ是十二費目ノ外ナリトノ錯誤ヲ來シ易キヲ憂フルナリ何トナレハ其豫算外ニ生シタル云ヤトセハ必ス十二費目豫算外ナリト解シ易キヲ以テナリ修正委員及ヒ内閣委員ノ説モ共ニ本官

ノ説ト大ニ徑庭セサルヲ覺フ本官ノ見ル所ハ例ヘハ一費目ヲ概算スルモ其豫備ノ爲メ少ク有餘ノ見込ナカルヘカラスト雖モ其過當ノ剩餘ヲ要シ人民ヨリ之ヲ徵收スルハ固ヨリ賦課ニ厚キノ嫌ヒアルヲ以テ務テ至當ノ豫算ヲナシ而シテ若シ其不足ヲ生スルハ不得已第五條ニ依リ臨時會ヲ起スモ亦妨ナシトス其果シテ何事ニ支辨スルヤハ知ルヘカラサル費用ノ爲メニ漫然タル豫備費目ヲ掲ケ之ヲ議定スヘシト言フハ議事ノ精神ニ反セリ仍テ豫算ノ不足ヲ補フヘキモノヲ云フトスルハ判然明白ナルモノナルヲ以テ之ヲ取舍セントスルナリ

○番 今村和郎 修正委員ハ痛ク豫備費ノ支用ヲ防ク爲メニ豫算外ニ生シタル費用ニ充ツヘキモノヲ云フトノミヲ注セシナルヘシト雖

モ亦八番ノ顧慮スル如キ恐レナキヲ保タス仍テ判然十二費目外ニ
 及フヲ得サルノ字句ヲ以テ之カ注解トナサハ太々可ナラン然レト
 モ只豫算ノ不足ヲ補フヘキモノヲ云フトノミニテハ未々以テ隔靴
 搔痒ノ感アルヲ免カレサルナリ

○一番玉乃豫算ノ不足ヲ補ヒノ字ヲ刪リタルモ其十二費目外ニ生
世履シタルモノト誤解スルノ理由ハ敢テ之ナシト信ス例ヘハ警察費ハ
 十二費目中ナリ然レモ將來盜賊何程多キヤト豫算スヘカラサルハ
 乃チ未來ヲ察スル能ハサレハナリ故ニ統計表ニ準據シテ豫算ヲ立
 タルモ米價騰貴等ノ原因ヨリ俄ニ其額ヲ増加セシヲ以テ之ヲ防遏
 スルノ策ヲ更張セサルヲ得ス是レ乃チ豫算外ニ生スルモノナリ其
 他地震海嘯等皆然リ仍テ循環シテ之ヲ讀メハ猶其力足ラサルヲ以

テ大石ヲ扛ルコヲ得スト云モ大石ヲ扛ルコヲ得サルハ其力ノ足ラ
 サルヲ以テナリト云フモ同一理ナルカ如シ是レ之ヲ數字ヲ刪除セ
 シ所以ナリ

○議長 發議既ニ盡キタリト認ム八番ノ修正說ヲ可トスルモノハ起
 立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ說ヲ廢棄シ本按ニ決ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十三號議按

明治十一年第十九號布告第四條改正按

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ

其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年五月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

○議長 本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

○ 全員悉起立

○議長 全會ニ致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十四號議按

明治十一年第十九號布告第五條改正按

第五條 非常ノ費用ハ 豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサルモノヲ云 別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り內務卿及大藏卿ニ報

告スヘシ其急施ヲ要スル事項ハ府縣會ニ付セス便宜施行シテ後報告スルヲ得此場合ニ於テハ之ヲ其後開ク所ノ府縣會ニ報告スヘシ

○八番 細川潤次郎 本按施行シテ後報告スルヲ得トアルハ其何レニ報告スルコナリヤ分明ナラス仍テ兩卿ニノ三字ヲ補加シ其內務大藏ノ

兩卿タルコトヲ明示セントス

○十八番 東久世通禧 賛成

○議長 八番ノ修正說ニ賛成アルヲ以テ問題ト爲ス之ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○ 起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ修正ハ廢棄ス即チ本按ニ決ス

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第十五號議按

明治十一年第十九號布告第八條增加按

第八條 府縣會若シ豫算ノ議按ヲ議定セサルカ又ハ議按ヲ議定ス

ルニ及ハスシテ内務卿ヨリ閉會若クハ解散ヲ命シタルキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務卿ハ前年度ノ豫算額ニ據テ徵收セシムルヲ得

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第十六號議按

明治十一年第十九號布告第九條增加按

第九條 島嶼ノ地方税ニ係ル會計ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣

令ヨリ内務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ會計ト之ヲ分別スルヲ得

○二十九番 柴原和

本按會計ノ字ハ穩當ナラス何トナレハ府縣會ノ性

質ハ十一年第十八號布告ノ第一條同第十九號布告ノ第七條ニ明了

ナリ然ルニ會計ト云フハ其費用ヲ計算スルノ謂ニテ豫算ヲ爲スノ

謂ニアラス仍テ之ヲ修正シテ前ノ會計ハノ三字ヲ刪リ徵收支出ノ

ノ五字ニ修正シ後ノ會計ノ二字ハ刪ラントス

○議長 賛成ナキヲ以テ廿九番ノ說ハ消滅シ本按ヲ可トスル者ハ起

立セヨ

起立者八人

○議長、多數ナルヲ以テ本按ニ決シ本日ハ此ニ了リ明日引續ノ會ヲ開カン散會セヨ

午後第三時四十五分閉場

○議案ノ一、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ二、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ三、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ四、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ五、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ六、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ七、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ八、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ九、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、
○議案ノ十、本會ノ事務ノ整理ニ關シテ、事務長トシテ、

元老院會議筆記明治十三年三月二十四日

○第一百七十五號議按 地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第二十四號ニ至ル議按及ヒ備荒儲蓄法布告案

第二讀會 三月二十三日ノ續

議長 山口 尙芳
代理

出席議員

- 一番 玉乃 世履
- 二番 齋藤 利行
- 三番 大久保一翁
- 四番 津田 眞道
- 八番 細川潤次郎
- 九番 神田 孝平

十二番 岩下 方平

十八番 東久世通禰

廿一番 河瀬 眞孝

廿四番 山口 尙芳

廿五番 河田 景與

廿六番 伊丹 重賢

廿七番 楠本 正隆

廿九番 柴原 和

内閣委員 番外 内務少書記官 今村 和郎

午前第十時二十分開場

○議長 本日ハ議長他ノ公務ニヨリ本官代理ヲ爲シ第百七十五號議

按第十七號以下第二讀會ノ續會ヲ開ク

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十七號議按

明治十一年第三十九號布告第一條改正按

第一條 營業稅ヲ賦課スヘキ者左ノ如シ其制限ハ府縣會ノ議決ニ

任ス但國稅アルモノヲ除ク

會社

卸賣商

仲買商

小賣商

雜商

○八番 細川潤次郎

本按改正ノ要點ハ營業稅ノ制限ヲ府縣ノ會議ニ委スルニ在リ而シテ第十八號ノ雜種稅モ亦之ト同一ニセリ仍テ併テ之ヲ論セサルヲ得ス已ニ國稅ハ地租百分ノ三ト制定シ其後減シテ二分五厘ト爲スノ詔アリ其地方稅即チ民費モ亦正租五分ノ一ヨリ超過スルヲ得サルノ制限トナシ明治十一年第十一號布告ヲ以テ營業稅及ヒ雜種稅ハ別段ノ布告ニテ之ヲ定ムト發令シ人民ヲシテ其堵ニ安セシムルヲ致ス原按モ亦此精神ニ基キ豫メ其制限ヲ載ス其レ此ノ如ク國稅營業稅雜種稅皆其制限アルモ獨リ戶數割ノミ制限ナキヲ以テ其徵收底止スル所ヲ知ラス故ニ本院曾テ其制限ヲ議定上奏セシニ未タ其發令ヲ見スト雖モ本官ノ所見ハ營業稅雜種稅ハ論ヲ俟タス戶數割ニ於ルモ都テ制限ヲ立テ其區域内ニテ費用ヲ支辨

スヘキモノトス蓋シ租稅ニ於ル之ヲ徵スル者ハ務メテ其多ランヲ欲シ納ムル者ハカメテ其寡カラシム望ム是レ人ノ常情ニシテ總テ稅ハ勞力ヨリ生スルモノナレハ國家止ムヲ得サル場合ニ於テハ多ク之ヲ徵收シテ其支用ニ供スルモ平時ニ在テハカメテ其寡少ナルヲ要ス可シ故ニ或ハ究屈ナルカ如キモ其制限モ亦設ケサルヲ得ス是レ則チ國稅地方稅皆共ニ其制限ナカルヘカラサル所以ナリ然ルヲ俄然營業雜種兩稅ノ制限ヲ解キ之ヲ議會ニ委スルハ太々謬レリ若シ斯ノ如クシハ徵收者ハ其豫算ヲ立ルニ容易ナルヲ以テ必ス多ク徵收スルヲ勤ムナラン凡公共ノ費用ヲ議スルヤ其節減ヲ專ニスルモノハ頗ル少ナリ諸官省ノ費額ト雖モ概子然ラサルハナシ噲ヘハ定額金ヲ以テ其用度ニ充テ若シ剩餘アレハ之ヲ大藏省ニ返付ス

ヘキモ已ニ返付セハ明年ヨリ定額ヲ減セラレ、ノ恐レアルヲ以テ
 タトヒ必用ナラサルモ或ハ土功ヲ起シ或ハ不急ノ物品ヲ購買スル
 ニ至ルハ現今一般ノ状態ナリ之ト均ク議會ニ於テモ多額ノ豫算ヲ
 議定スルニ至ルヤ未タ知ルヘカラス況ヤ日進ノ氣運ナルヲ以テ警
 察費教育費等ニ充ルモノ漸次増加スルニ依リ厚重ノ稅ヲ徵收スル
 ニ至ラハ能ク人民ノ之ニ堪ルヲ得ルヤ決シテ其能ハサルヲ信ス大
 抵地方ノ事務モ其分限ニ應セサレハ不可ナリ然ルニ今營業稅雜種
 稅ノ制限ヲ解キ之ヲ府縣ノ議會ニ委セハ或ハ恐ル議會ハ地方官ノ
 十分ナル豫算ニ曲從シ餘裕アル豫算ヲ議決スルニ至ランコトヲ故ニ
 或ハ地方官ノ究屈不便ヲ鳴スアルモ地方稅ノ制限ハ斷シテ之ヲ解
 クヘカラサルナリ

○二番 齋藤 利行 賛成

○議長 八番ノ說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外 今村 和郎 十一号第三十九號布告ハ營業稅雜種稅ノ種類ト制限

トヲ定メタルモノナリ其制限ヲ解クニ於テハ特ニ其種目ヲ列舉ス
 ルニ及ハス然ルニ修正按ハ之ヲ列舉シ而シテ雜種稅目中ニ營業稅
 ヲ混淆シタルモノアリ且第十七號ニハ其制限ヲ府縣會ニ委任シ第
 十九號ニハ政府ノ裁可ヲ受クヘシトアリテ彼是撞着スルモノ、如
 シ曩ニハ營業雜種兩稅ヲ稱シテ府縣稅ト云ヒ其徵收ハ專ラ地方官
 ニ任セタルニヨリ各府縣共其制限ヲ異ニス故ニ十一年第三十九號
 ヲ以テ營業雜種兩稅ノ制限ヲ設ケテ之ヲ布告セリ是レ則チ府縣ヲ
 根據トシテ其平均上ヨリ立タルモノトス但東京府下ノ如キ市街ニ